

「第16回石川県書写書道教育研究大会集録」の発刊によせて

石川県書写書道教育連盟会長
第16回石川県書写書道教育研究大会長
藤 則 雄

石川県書写書道教育連盟は、幼稚園から大学に至るすべての学校教育が一体となり、授業研究を中心に、最近における書写書道に関わる教育諸問題や教育改革に伴う教師の資質向上に力を注ぎ、児童・生徒の豊かな心の育成に資する全国大会での研究発表や今日的教材研究の討議を行う事にしてまいりました。

本年度は、

研究協議会Ⅰ：書写書道の今日的課題

- ①全国高校書道研究大会報告 野田明子先生
- ②福井県書写書道教育研究大会報告 堀 順一郎・八田和幸先生

研究協議会Ⅱ：授業実践に向けての手立てを探る

- ③高校実践発表
「プレゼンテーションソフトを使った視覚教材の一工夫」 水上真由美先生
- ④小中学校実践発表
「生活に生きる書写の授業」 佃 さえ子先生
「メディアを使った書写の授業」 飯田淳一先生

等の発表を柱に、夫々に極めて真剣な討論と総括がなされ誠に実の挙がった協議会でありました。

本「大会集録」は、平成17年度の研究大会を中心に、本連盟の運営の実態と役員についても掲載してあります。

会員各位には、本誌をご参考に、石川県の書写書道教育の更なる発展の一助ともされますことを心から祈念致しております。

平成17年度における各種活動や研究大会の開催に多大のご尽力を賜った実行委員や本誌の刊行、本連盟の運営に並々ならぬご努力を頂いた役員、就中、石浦義彦理事長・中川晃成事務局長・岩田稚子副事務局長、及び補佐の任に当たられた方々に、また本年度の研究大会でご発表された諸先生方と実践発表にご協力された助言者・司会・記録者に心からの感謝の意を表します。

本会の益々の発展と会員のご健勝・精進を祈念いたします。

目 次

1. はじめに	1
2. 第16回石川県書写書道教育研究大会要項	3
3. 研究協議会Ⅰ報告	7
「書写書道教育における今日的課題 ～報告・実践を受けて～」	
◇第30回全日本高等学校書道教育研究会（広島大会）報告	
野田 明子（石川県立内灘・松任高等学校）	
◇第47回福井県書写書道教育研究大会報告	
八田 和幸（金沢市立高岡中学校）	
堀 順一郎（野々市町立菅原小学校）	
研究協議会Ⅰのまとめ	22
4. 研究協議会Ⅱ報告	25
「授業実践にむけての具体的手立てを探る ～授業実践から～」	
－高等学校－	
◇「プレゼンテーションソフトを使った視聴覚教材の一工夫」	
水上 真由美（石川県立金沢商業高校）	
－小学校－	
◇「生活に生きる書写の授業をめざして」	
－4年「招待状を送ろう」の学習を通して	
佃 さえ子（金沢市立泉野小学校）	
◇「メディアを使った書写の授業」	
－書写コンテンツの作成とその活用－	
飯田 淳一（金沢市立大徳小学校）	
研究協議会Ⅱのまとめ	44
5. 大会に参加して	47
6. 石川県書写書道教育連盟のあゆみ	49
7. 平成17年度石川県書写書道教育連盟役員一覧	55
8. 石川県書写書道教育連盟規約	57

（学校名は平成17年12月大会時所属校の名称）

第16回石川県書写書道教育研究大会

平成17年12月9日(金)

第16回

石川県書写書道教育研究大会

金沢市教育プラザ富樫

大会テーマ

「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」

～自ら生活に生かせる確かな書写力をはぐくむ授業とは～

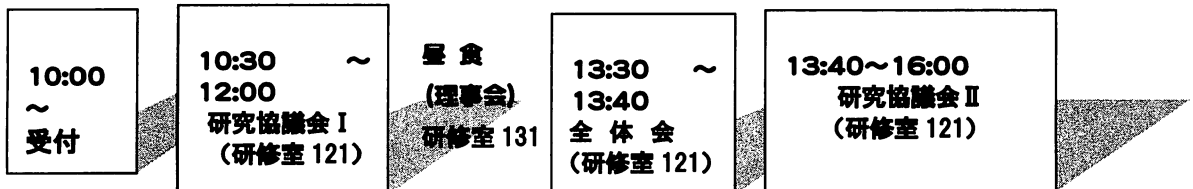
主催:石川県書写書道教育連盟

後援:石川県教育委員会

:金沢市教育委員会

:石川県私立幼稚園協会

日程



研究協議会 I (10:30~12:00) 121研修室

(敬称略)

研究協議会 I

「報告・実践をもとに書写書道教育における今日的課題を考える」

全国大会参加報告

- | | | |
|--------------------|-------|---------------|
| ①全国高校書道教育研究大会 (広島) | 野田 明子 | (県立内灘・松任高等学校) |
| ②福井県書写書道教育研究大会報告 | 八田 和幸 | (金沢市立高岡中学校) |
| | 堀 順一郎 | (野々市町立菅原小学校) |

司 会：西脇 良樹 (中能登町立越路小学校)

記 録：紺村由紀子 (白山市立蕪城小学校)

12:00~13:30 昼食休憩

理事会(1F 131研修室)

13:00~ 午後受付

全体会(13:30~13:40)121研修室

会長あいさつ

来賓紹介

研究協議会Ⅱ

(敬称略)

「授業実践にむけての具体的手立てを探る～授業実践から～」

高等学校

40分(13:40~14:20)

④実践発表 「プレゼンテーション・ソフトを使った視覚教材の一工夫」

- *発表者 水上 真由美 (石川県立金沢商業高等学校)
助言者 江尻 祐子 (石川県教育委員会学校指導課指導主事)
司会 田中 学 (石川県立金沢伏見高等学校)
記録 中尾 知巳 (金沢市立西南部中学校)

・質疑応答

小中学校

90分(14:30~16:00)

⑤実践発表 「生活に生きる書写の授業をめざして」

—4年「招待状を書こう」(硬筆)の学習を通して—

- *発表者 佃 さえ子 (金沢市立泉野小学校)

⑥実践発表 「メディアを使った書写の授業」

—書写コンテンツの作成とその活用—

- *発表者 飯田 淳一 (金沢市立大徳小学校)
助言者 中西 外美 (石川県教育センター指導主事)
司会 柿木 千鶴 (金沢市立諸江町小学校)
記録 吉田 美晴 (金沢市立中央小学校芳齋分校)

・質疑応答

研究協議会 I 報告

大会参加レポート

研究協議会のまとめ

第30回全日本高等学校書道教育研究会 広島大会 参加報告

石川県立内灘高校、石川県立松任高校、石川県立金沢中央高校（夜間）
非常勤講師 野田 明子

今大会は平成17年11月11日（金）・12日（土）、広島市立基町高等学校にて「永遠にいきづく書道教育をもとめて！」～再び、今、広島から未来へ～をテーマに開催されました。

『広島大会集録』より。

社会情勢が変化する中で、広島県高等学校教育研究会書道部会においても生徒により高い質の授業を提供できるよう、次の三つの視点で授業改善を進めています。

- 1、 情報機器の授業への活用を進め、情報ネットワークを構築していく。
- 2、 教師の意識を改革し、カリキュラムの改善を図っていく。
- 3、 適切な評価活動を導入し、わかりやすく楽しい授業に改善していく。

一方、「不易と流行」と言われるように、書道教育はいかに社会が変化しようとも決して変わらない部分と、社会の変化に対応すべき部分があります。このような変化の激しい時代だからこそ書道でなければできない教育があるはずです。記念すべき第三十回という節目にあたり、本大会では「永遠にいきづく書道教育を求め、書道教育でなければできないことは何か」を明らかにしていきたいと考えています。

今回の授業研究および研究協議は以下の通り。会場は広島市立基町高等学校各会場

A『評価規準に拠る評価方法を工夫した実践授業』

～蘭亭序から始める、生徒自身による自己実現～

広島県立広島観音高等学校 坪井 宏

B『インターネットを活用した授業』

～テレビ会議システムによる他校との同時授業～

広島市立安佐北高等学校 小林 俊弘

広島市立舟入高等学校 小波石 敏彦

C『意欲・関心・態度を高める授業』

～音楽を用いた漢字仮名交じりの書の創造的な表現活動～

広島県立広高等学校 津能 宏明

【参観授業より】

『インターネットを活用した授業』～テレビ会議システムによる他校との同時授業～

指導者 小林 俊弘先生（広島市立安佐北高等学校）

小波石 敏彦先生（広島市立舟入高等学校）

日時 平成17年11月11日（金）

場所 広島市立基町高等学校 公民教室

広島市立舟入高等学校 書道教室

対象学級 (安佐北高校) 1年1・2・3組書道選択生 25名
(舟入高校) 1年8組書道選択生 15名

単元名 「漢字仮名交じりの書」～心の言葉を書こう～

単元の指導計画

① 安佐北高校 (全8時間)

第1次 半紙に1～2文字を大きく書き、自分の好きな言葉を体裁良く書く。(2時間)

第2次 古典の中から2文字抜き出す。(2時間)

第3次 空間を意識しながら自分の好きな字を書く。(2時間)

第4次 半切1/2に大きく2文字書。半切1/2に大きく2文字、周りに自分の好きな字を書く。本時(2時間)

② 舟入高校 (全12時間)

第1次 課題「生きる」・・・漢字と仮名の調和と流れについて考える。(2時間)

第2次 課題「古池や蛙飛びこむ水の音」・・・調和・流れ・潤渇・構成。(2時間)

第3次 創作・・・十字前後までの自作自選の言葉。(4時間)

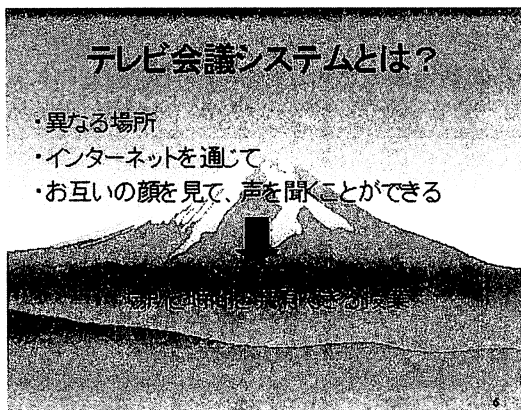
第4次 鑑賞・推敲→仕上げ。本時(1時間)

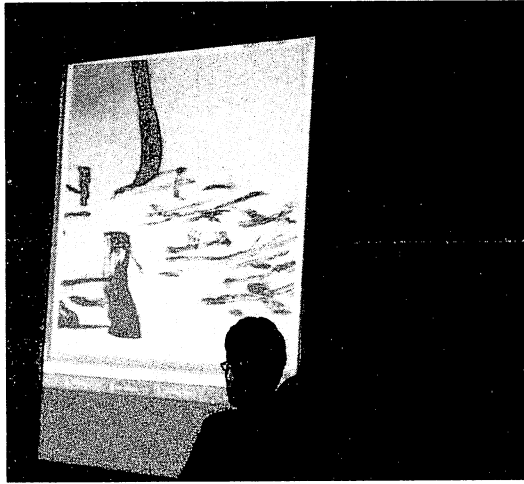
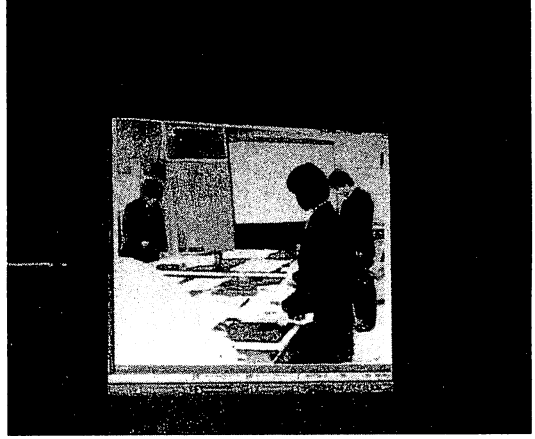
第5次 作品仕上げ。(2時間)

第6次 完成作品鑑賞会・・・自己評価・相互評価。(1時間)

本時の指導計画 (共通)

- 1、鑑賞
- 2、意見交換のまとめ(別紙プリント)
- 3、制作活動②
- 4、押印
- 5、作品掲示
- 6、次時の予告
- 7、後片付け





意見を取り入れて...



1. 書類に風つけよう

音楽	
作者	

2. あなたが考える音楽の意味

いじり	
ムラ	
だだ	
このみ	

3. 作品のイメージ(このほかイメージを書きたいか)

大切な音楽	
-------	--

漢字を交えたの書 作品制作のメンバー

組	
---	--

4. 具体的な方法

強さ	強い	弱い	両方
書き方	縦書き	横書き	混合
墨の濃さ	濃い	薄い	混合
筆の動き	速い	遅い	混合
字の大きさ	大きい	小さい	混合
字の形	丸い	角ばった	縦短 横短
漢字の書体	篆書 隷書 楷書 行書 草書 その他		

5. 空間処理について(空間の取り方)

教習書の	()	()の部分
具体的に	作品の	空間を

6. 草書作り(ミニチュアを作ろう) 墨濃さの場所を具体的に

--

漢字仮名交じり創作 その1 組 名前

下記の4つのテーマで「心の叫び～自分への問いかけ～」を題材に作品を制作しよう。

課題テーマ

- 喝 … 弱気な自分、挫けそうな自分を奮い立たせるような心の叫び
- 励み … 辛いとき、迷ったときに、勇気を与えてくれるような心の叫び
- 支え … 落ち込んで押しつぶされようなどき元気をくれる心の叫び
- 癒し … 疲れたとき、心を和ませてくれるような心の叫び

①題材（詩文）の決定 ～自作の言葉を考えよう（ / ）

<考え方>

- ・好きな文字（書きたい文字）を入れて考えよう。
- ・自分の好きな歌詞を参考にしよう。
- ・思いっくままに言葉を書き取り、つなぎ合わせよう。
- ・学校生活で出会った言葉や感じたことを参考にしよう。

<条件>

- ・漢字と平仮名（片仮名も可）が適度に交じった言葉であること。
- ・じっくりと吟味し、こじつけでなく必ずテーマにそった言葉であること。
- ・自作の言葉であること。
- ・字数制限20字前後を目標にし、形式や紙面に合わせて文字数を調整すること。
- ・3種類以上の言葉を記入すること。

テーマ()

テーマ()

テーマ()

テーマ()

②構想を練る（ / ）

- ・どのような印象か ・どのように表現したいか ・どのような書風がよいか
- ・どのような用具用材がよいか

※仕上げたい作品のイメージとそのイメージに合わせて工夫すること

書体・書風の工夫

・書体 [楷書 行書] ←○印で記入

・書風（どの古典が参考になりそうか）

教科書を参考に記入 →

・選択した意図（何を、あるいはどんなことを表現したいから、この書体・書風を選んだか）

墨色の工夫 [濃墨 ・ 中濃墨（普通の濃さ） ・ 淡墨]

・選択した意図（どんな表現効果をねらい、またどんな雰囲気の商品にしたいと考えて、この墨色を選んだのか）

筆の種類 [羊毛中鋒 ・ 羊毛長鋒 ・ 羊毛長々鋒 ・ 剛毛中鋒]

紙の種類 [にじみやすい紙 ・ にじみにくい紙]

☆授業の工夫

① 安佐北高校

- ・ 6つのグループに分かれ、お互いの作品について批評し合っていた。
- ・ 多くの作品（作家、上級生）を鑑賞し、作品の多様性を感じ取れるようにしていた。
- ・ 作品制作過程、作品鑑賞についてプリントに、感想や意見をまとめていた。

② 舟入高校

- ・ 課題「生きる」、「古池や蛙飛びこむ水の音」は、漢字と仮名の古典資料が用意されていた。
- ・ 構成や落款についても、教材プリントがあり、生徒が理解しやすいものとなっていた。
- ・ 創作では、「心の叫び～自分への問いかけ～」を題材に4つのテーマ（喝・励み・支え・癒し）をもとに、①題材（詩文）の決定②構想（書体・書風・墨色・筆・紙）③書道辞典を使ってサンプルを集字④全体構成⑤墨継ぎ⑥漢字と仮名の調和⑦文字の変形⑧余白を生かそう⑨鑑賞→課題の発見をプリントにまとめ、制作過程を大切にしていた。

☆ 研究協議

① 安佐北高校の指導者、小林俊弘先生より

現在の学校教育において、全国的にインターネットの環境整備が進み、国内外を問わず情報の収集・発信が可能になっています。しかし、情報を取り込む授業は多く行われていても、情報を発信する授業はまだ少数です。今回は各学校が持つ【今あるあたりまえの環境】においてできる限り安価で簡便な機器を使用し、全国規模でどこの学校とも画像・音声の送受信ができることを視野に入れた双方向授業を目指します。

② 舟入高校の指導者、小波石敏彦先生より

今回、我々が行う遠隔型の交流授業では、生徒に対する指導面の打ち合わせは一切行っていない。むしろ違う切り込み方で指導を受けてきた生徒同士の交流を考えてみた。全く学習環境の違う両校なのでもちろんそのねらいもお互いに異なるが、大きな柱として、「感性を育てる」という点においては、一致するところだと考える。まだまだ課題は多いが、今後の書写・書道教育の可能性をさぐる一つの授業形態として提示できればと思っている。

* おわりに

全国大会に初めて参加させていただき、得るものが多くありました。私自身5年ぶりに書道を担当することができ、「時代や社会の問いかけ」に応えていくため、授業の充実に励まなければならないと思っています。また、小・中・高との連携を進めたいと強く感じました。

第47回 福井県書写書道教育研究大会 鯖丹大会 中学校部会 報告

金沢市立高岡中学校 教諭
八田 和幸

1. 研究主題 「生きる力をはぐくむ書写書道教育」
2. 期 日 平成17年10月13日(木)
3. 会 場 鯖江市東陽中学校
4. 中学校テーマ 「確かな書写力を身につけ、生活に生かそうとする子を育てる
書写書道教育」
5. 指定授業

単元名 行書を知ろう

指導者 T1 東陽中学校教諭 高棹 真由美 姓
T2 書 家 水崎 素雲 姓

単元の目標

- ・行書と楷書の違いに気づき、行書の特徴である点画の「丸み」「連続」「方向や形の変化」「省略」を理解する。
- ・行書の特徴を毛筆で書くことで確認し、硬筆に生かすとともに、教材で取り上げた以外の文字にも活用する。
- ・行書の特徴や文字の大きさと配置・配列を確かめて年賀状や書き初めを書くことで、書写で学んだことを日常生活に生かそうとする態度を持つ。



単元の評価規準

評価の観点	評価規準
関心・意欲・態度	行書に関心をもち、特徴に気をつけて書こうとするとともに、書写で学習したことを生活に役立てようとしている。
言語事項	行書の書き方の特徴を理解している。 行書の書き方のに従って文字を正しく整えて速く書いている。

指導について(要約)

- ・行書学習のねらいは、行書の正しい書き方を身につけ、日常生活の中で文字を整えて読みやすく書く能力を養うこと。
- ・学習指導要領からは、「言語事項」の位置づけゆえ、「美しさ」よりも「伝達性」が重視され、基礎・基本の徹底が必要である。
- ・はじめての行書学習なので、楷書との比較の中で理解を進めたい。

- ・「月光」において「丸み」と「(横画→横画の)連続」を学習する。
- ・「牧歌」で「(左払い→横画への)連続」「(折れ→横画への)連続」「(右払い)形・方向の変化」の理解を深めさせたい。
- ・「林道」では「省略」の再確認と、生徒ひとり一人の名前の行書化、年賀状書きへと発展させていく。

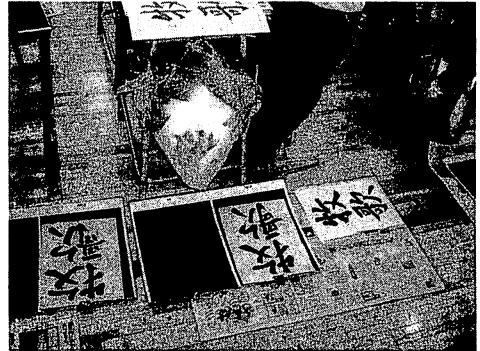
本時の目標

「歌」の文字を行書の特徴「点画の連続・方向や形の変化」に気をつけて書くことができる。

準備物

目標カード 拡大手本 模造紙 座席表
朱書ペン 台紙 ワークシート

本時の学習過程 (ビデオ参照)



- つかむ**
- ・目標の確認 (点画の連続・方向や形の変化に気をつけて「歌」の文字を書くことの理解) 目標カード
 - ・前時に書いた「牧歌」の試書を机に出す。 紙
- 考える**
- ・基準の理解「(左払い→横画への)連続」「(折れ→横画への)連続」
- すすめる**
- ・「(右払いの)形・方向の変化」 拡大手本
 - ・(T2課題) 範書を見て、筆遣い(運筆、運勢)を確認。
 - ・試書の振り返り 自分のめあてを持つ。 朱書ペン
 - ・自分のめあてに沿ったワークシートでの練習。 ワークシート
 - ・練習と自己批正
 - ・「牧歌」2文字での清書
- たしかめる**
- ・自己批正 ・相互批正 (上達した点を誉め合う)
 - ・T2の話聞く ・次時の学習の確認。
 - ・作品提出

6. 授業を見ての感想

- ・書家による範書と言えど、あれだけ大きな筆で書けば、必然的に生徒達の使う大筆とは、墨継ぎの場所が変わってくるし、筆遣いのリズムも変わってくる。そのことの善し悪しを認識していないといけない。書家による芸術的・感覚的な指導の良さと学校現場の言語事項としての指導の差(長所・短所)を埋めるために、学校現場に理解のある外部講師の発掘が必要では？
- ・試書を、教科書の手本を全く見ないで書くところからスタートした方が、生徒自身も書写力の向上を実感しやすいのではないだろうか。

7. 中学校分科会提案

(1) 生徒の実態に応じたきめ細かな指導

①生徒一人一人に応じた指導ができるようなワークシートの工夫

縦横補助線のみ、偏のみ、旁のみ、試筆のみ、骨書き、籠書き全セットを配布、生徒は課題に合わせて選んで練習。

②目標の明確化と自己評価・相互評価の工夫

本時の目標を明確にするために、個々の課題を持たせる。基準理解をしっかりとさせた上で試書を振り返り、範書と比べ、できている筆遣い・できていない筆遣いを自分の目で確認させる。欲張らずに2つ程度に抑えること。朱書ペンの活用。試書での目標を言語化し、台紙に（試書と清書を並べて）貼り、その課題に照らして上達したかどうかを全体の場で相互評価する。清書には、ABCの3段階で、その1時間の振り返りを自己評価させる。

③生徒の多様化への対応、個に応じた指導、地域人材の活用などの観点から、地元で活躍している書家の先生とのTTを企画。学年・クラスまんべんなく来て頂けるように計画を立てた。

(2) 生活に生かす場の工夫

書写の授業で扱った題材の文字だけが上達しても、日常生活の文字を書く場面で生かされなければ、書写力が身についたとは言えない。

①詩の授業において

〈1年「風景」・3年「永久欠番」の発展学習として〉自分のお気に入りの詩を、配置・配列をよく考えながら作品として書き上げる。

②古典の授業において

〈3年「万葉、古今、新古今」の発展学習として〉国語学習のあと、便覧の中から好きな和歌を選び、筆ペンで歌を、硬筆で解説文をと、ワークシートにまとめ発表した。

③俳句の創作活動をとおして

修学旅行や各種行事の感動を俳句にまとめ（これも専門家に添削してもらい）色紙・短冊に書いて、廊下や学校祭に展示した。行の中心、漢字と仮名の調和、空間の取り方に重点を置いて指導、完全な行書体にこだわるよりも作品全体の調和を優先した。

④私の選んだ今年の漢字

毎年、清水寺で行われる「今年の漢字」にならひ、生徒各人が9cm四方の紙に、一字を行書で墨書、説明文も添えた。また掲示するだけでなく、学年便りでも紹介した。

⑤年賀状や礼状の作成

職場体験でお世話になった事業に宛ててのお礼状では、便せん・宛名は小筆または筆ペンの行書で書いた。年賀状の宛名書きも同様。Windows

に組み込まれているドローソフト「ペイント」とも組み合わせ、レイアウトも考えた。

成果と課題

- ・より効果的なワークシートの開発が課題。情報の共有化と蓄積。
- ・朱筆ペンによる自己批正、課題の明確化は良かった。
- ・級友・書家からの賞賛の声が励みに。
- ・外部人材との打ち合わせの時間・反省の時間の確保が課題。
- ・身近なところの校内掲示物や案内板などを、生徒の書の学習を生かす場としてどんどん利用してゆく。



第47回福井県書写書道研究大会（鯖丹大会） 小学校高学年部会 報告

野々市町立菅原小学校 堀順一郎

平成17年10月13日（木）に福井県鯖江市を中心に研究大会が行われました。小学校5年生の指定授業とその後行われた高学年分科会に参加しましたので報告させていただきます。



1. 研究主題

「生きる力をはぐくむ書写書道教育」

2. 分科会テーマ

・小学校低学年

「文字を正しく丁寧に書こうとする子を育てる書写教育」

・小学校中学年

「毛筆の特性を生かし、文字を整えて書こうとする子を育てる書写教育」

・小学校高学年

「文字意識を高め、読みやすく書こうとする子を育てる書写教育」

3. 小学校高学年部会

(1) はじめに

高学年になると、学習の際の板書や記録における文字量が急速に増加し、「ゆっくりと丁寧に書けば字形が整う」という書写力はでは間に合わなくなる。また「手本を見て書く」学習だけではなく、「自分で判断しながら書く」学習指導を工夫する必要がある。

そこで、読みやすい字とは何か、どうすれば読みやすくなるのか、一つ一つ確かめながら書き表し方の良さを知り、文字を書き表す際に読み手への効果を工夫し、児童が互いに高めあう学習姿勢を育てていかななくてはならない。これらを踏まえ、実践に取り組んだ。



(2) 実践

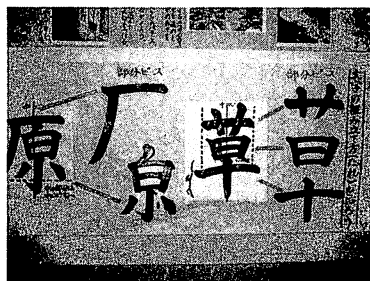
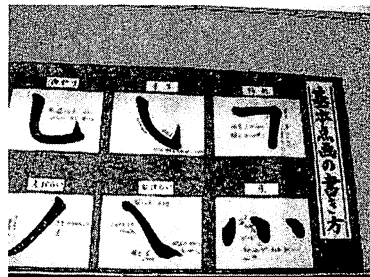
① 児童の実態に応じたきめ細かな指導

1) 基準理解の場面での効果的な指導の工夫

ア 点画ピースを使って

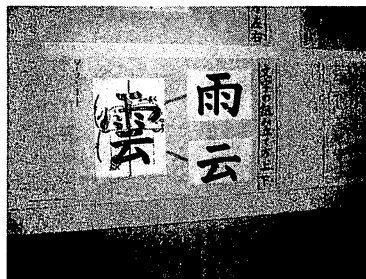
点画ピースをただ単に操作させるのではなく、「どうしてそのピースを選んだのか」という理由を発表させることでどの児童にも視覚に訴えた基準理解をさせることができた。また、教材の中心文字やめあてに沿った大切な点画を児童に作らせ、操作する活動も行った。

児童の様子から、文字の形や位置など構成の仕方を身に付けるのにとっても効果的であり、体を使って文字を作っていくので、楽しみながら基礎が身についたようであった。



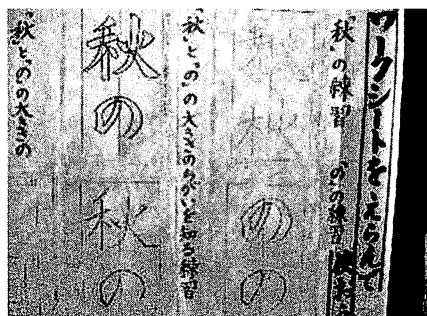
イ 竹ひごを使って

竹ひごを用いて文字の中心を押さえることで効果的に基準理解ができた。



2) めあてに応じたワークシートの工夫

文字の組み立て方を知るために、段階ごとに4種類のめあてに沿ったワークシートを用意し、その中から2つを選んで練習に取り組めるようにした。一つのめあてが達成したら自主的に次のめあてへ進んだり、苦手な部分を繰り返し練習することができ、自分で判断して練習する力が身についた。



3) 書家との連携を生かしたチームティーチングによる指導

【書家の主な役割】

<範書>

黒板におきな紙を用意し、一画ごとに大切なポイントを押さえ「シューツ、トン」と声を出しながらゆっくりと書く。筆使いを間近に見ることで気をつけるポイントが明確に伝わる。



<机間指導>

筆使いの悪い児童や基準理解がまだできていない児童中心に、一緒に手をとって書くことで筆の使い方が分かり、練習でつまづいている児童の励みになった。また、書家から褒めてもらったり、認めてもらうこと自信が付き次への意欲につながった。



4) めあて・活動・評価の一体化とその工夫

ア 個に応じためあての明確化

試書をした後、手本と見比べ直すべき点を赤ペンで書き入れめあてを考えさせた。しかし、指導者のねらいとはかけ離れてしまうケースがある。そこでポイントを明確に示すことや試書から把握できた児童の実態をもとに4つのめあてを提示し、そこから選択させるようにした。めあてを選択させることで、児童はより明確に自分の苦手な部分を把握し、練習に取り組むことができた。

イ 振り返りカードの活用

振り返りカードには◎、○、△を記入させ、一目で本時の活動の様子が分かるようにした。めあて→活動→評価を一体化させて取り組むことで、児童が自ら気づき、学ぶ姿勢が身につけてきたのではないかと考えられる。

②生活に生かす場の工夫

1) 書写の学習を生かした作品作り

ア 短歌を作ろう

国語科の学習と関連づけて、修学旅行の思い出を小筆を使用し、短歌と絵を書いた。文字の大きさや作品によって筆を使い分けることも学ぶことができた。

イ 屏風を作ろう

図工の時間に屏風作りに挑戦した。ダンボールの紙の上に画用紙を貼り、その上に自分の好きな言葉や詩などを小筆で書いた画用紙を貼って屏風を完成させた。文字の大きさや配置、墨の濃淡など工夫も工夫すると味わい深い作品になることに気付き、意欲的に取り組む姿が見られた。

ウ 座右の銘を書こう

学活の時間に毛筆で「座右の銘」や「今年目標」を書く学習をした。筆で書くことにより趣のある作品ができた。筆で書くことで気持ちが引き締まり、字形を整えて書こうとする意識が高まった。

毛筆を色々な場で生かせることに気付き、普段の書写の時間にも意欲的に取り組むようになった

2) 自分の思いを伝える書く活動

ア 絵手紙を書こう

絵手紙には、筆ペンや小筆を使ってメッセージを書き、消しゴムで作ったオリジナルのはんこを押した。季節感のある物をテーマに選び、一言で様子が伝わるようなメッセージを書き入れた。もらった人からは、作品の感想が書かれた返事が届き、児童は喜んでいた。

イ 感謝の手紙を書こう

学校改築の工事の人たちに、全校で感謝の気持ちを手紙に書き込んで、児童会の代表が手渡した。工事の人たちが涙を流して喜んでくれたと伝え聞き、児童は思いが伝わったことに満足していた。

ウ 児童会新聞を作ろう

児童会役員は、「みんなが読みやすいように」を目標に、行間や字の大きさを考えて新聞を発行している。他の学年も児童会新聞を参考に、他教科で新聞作りに取り組むようになった。児童は、自分の字をいろいろな人に見てもらおうという機会が増え、文字には人柄や気持ちが表れることにも気付き、「思いを伝えるためには読みやすく丁寧に書こう」という意識が高まると共に、普段の授業でもノートを見やすく書こうとする児童が増えてきた。

(3) 成果と課題

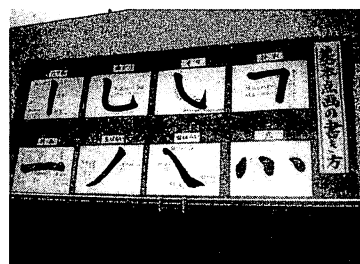
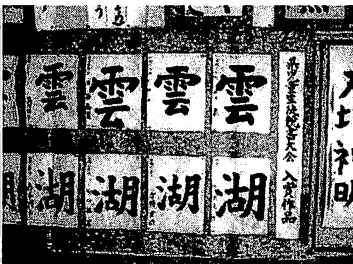
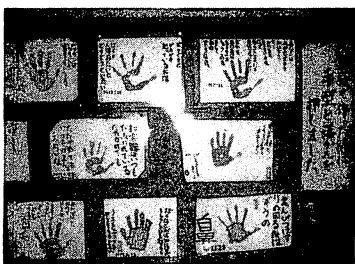
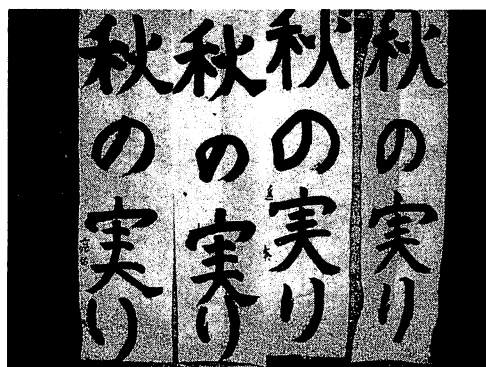
①成果

- ・ 教具，指導法の工夫により，児童が自分で書くことを楽しむようになった。
- ・ 目的意識を持って，主体的に学ぶ態度が身に付いた。
- ・ 客観的に自分の書いた字を見る力が付いた。

②課題

- ・ 点画ピースの活用方法を工夫する。
- ・ ゲストティーチャーとの打ち合わせ時間を確保する。
- ・ T T指導を工夫する。

(T 2としてのゲストティーチャーから，T 1も児童と同じ目線で習うなど)



研究協議会Ⅰ 記録

「報告・実践をもとに書写書道教育における今日的課題を考える」

記録 白山市立蕪城小学校 紺村 由紀子

研究協議会Ⅰでは、まず、全国大会の参加報告が行われた。

高校の部として野田先生からインターネットを活用した授業が報告された。それは、テレビ会議システムによる他校との同時授業であり、学習内容は身近な言葉を題材とした自分たちの作品を鑑賞しあうというものであった。相手校の生徒の説明を受け、感想や質問をかわし、制作活動に入った。意見を取り入れることで心のこもった作品が出来上がっていき、前時と本時の作品を並べて掲示し、紹介しあっていた。聞いている生徒は受身ではなくしっかりメモを取り、緊張感の中にも楽しい雰囲気が進められたそうである。テレビ会議をするにあたって、事前の交流やシステム面の課題があるが、お互いの書きぶりや作品に出会うことで表現力が向上し、他校と交流することにより、互いの学校の良さを感じ自分たちの授業では学べないことを学ぶことができていたと報告された。

中学校の部としては、八田先生から書家とのTT（ティームティーチング）の授業が報告された。中学校で初めて行書授業をしてから何回目かの授業であり、教師は楷書との比較の説明をし、書家の方は書きながら説明をしていた。生徒自身が理解し目標をもち、練習し自己批評するとともに、書家の方から手を持って指導していただくことで、生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導ができていたようだ。また、出来上がった作品に対しての感想や励ましは、生徒たちにとって大きな励みとなっていた。外部の方が入ると新鮮で緊張感のある授業となるという成果とともに、人材発掘や打ち合わせの時間確保、書家の感覚的な指導や生徒の自分なりの課題に対して表れる個人差が課題として挙げられた。

小学校の部では堀先生から児童の実態に応じたきめ細かな指導実践として、点画ピースを使った掲示物や、中心を押さえるための竹ひご、めあてに応じたワークシートを使用した実践とともに、書家とのTTが報告された。範書の場面では筆使いを間近に見ることで気をつけるポイントがはっきりし、机間指導では手を持って一緒に書いてもらったりほめてもらったりすることで自信が付き意欲が出たという成果とともに、書家との打ち合わせの時間確保の難しさが挙げられた。また、生活に生かす場の工夫として書写を国語や図工、学級活動・児童会活動とからめて自分の思いを伝えるために作品を作る実践例が出されていた。

以上の報告を受けて、司会から次の3つの柱が出され、協議された。

- ① 授業形態・・・インターネットの使用、書家など外部講師とのTT
- ② 個に応じたきめ細かな授業
- ③ 生活に生かす書写の力

である。

① 授業形態

今回の報告では、インターネットの使用、書家など外部講師との TT など、いろいろな授業形態が出された。それぞれ、新鮮で緊張感があり交流することで励みになり活動意欲や表現力の向上などの成果が見られた。その一方、外部講師と連携するには、10分話してもらうにも打ち合わせに6回要した経験も出されるなど、打ち合わせを十分に行う必要性があげられた。また、講師との連携において、話す声の大きさや速さなど外部講師が学校現場のことをある程度理解していることが必要であるという意見が出された。だが、パーフェクトでなくてもいろいろな人が学校現場に入るべきであるという意見も出された。その入り方がまずかったら専門家である学校の先生が入って補うとよいのであり、それこそが先生の役割であるという貴重なご意見もいただいた。これからは教師もコーディネーター的な役割が重要となってくる。

一方、教育は発達段階や指導順序を考えて行うという、字を書くだけではない要素を含んでいるので、教育者と書家を分けて考えなければならないというご意見もいただいた。

② 個に応じたきめ細かな授業

きめ細かな指導として書家との TT が効果的な実践として挙げられた。書家の方からの確かなアドバイスをいただくことや手をもって一緒に書いてくださることで、子どもたちは筆使いを感じ、活動意欲が向上するという意見が多かった。同じ仲間ではお互いに認め合うことにも限界があり、外部からの講師にほめられてもらうことはとてもいい刺激となるということであった。しかし、書家との TT では、書家の芸術家としての要素ばかりが強調されることなく字形を整え正しく書くことの重要性が指摘された。小学校において、書写は「言語についての知識・理解・技能」に位置づけられている。毎日の学習の中で筆だけでなく、鉛筆の持ち方を正しく教えていく必要がある。基礎基本を大切に、小中学校と高校で何を学ぶのか系統立てて知り、その上で効果的な指導を考えていくことが大切であることが確認された。

③ 生活に生かす書写の力

学習指導要領の総則では、「各教科及び各学年相互間の関連を図り、系統的、発展的な指導ができるようにすること」とあり、書写の内容も教科間の関連や「総合的な学習の時間」にも応用できるように教材化されている。小学生が一人暮らしのお年寄りに年賀状を送ったときに、「ありがとう」という思いもよらない感想に子どもたちが感動したことや、お年寄りからのお礼の手紙の美しい字に出会い感動したことを挙げ、外に発信する良さを感じている体験が出された。学校の書写学習を通して習得された書写力が生活の中でコミュニケーション力として世界が広がり生きていく力となるよい例であった。

上記のように、全国大会の参加報告に基づき、活発な議論がなされた協議会であった。今後、個に応じたきめ細かな授業やいろいろな授業形態を工夫し、生活に生かす書写の力を伸ばす授業を創造していく会となるであろう。

研究協議会Ⅱ報告

実践発表レポート

研究協議会Ⅱのまとめ

プレゼンテーションソフトを使った視覚教材の一工夫 ～漢字の創作（Tシャツに書く）に向けて～

石川県立金沢商業高等学校 教諭 水上真由美

1, はじめに

教員になって11年目、今年は10年経研修の一年である。研修の一つである、夏休み中の模擬授業(3年生自由選択書道Ⅱ)で「漢字の創作」を行った。「創作」はいわゆる「手本」がないため、自分の表現にこだわり、自分の内面とも向き合うことが大切になってくる。指導方法の一つとして、自分のイメージを膨らませるために、プレゼンテーションソフトを使い、視覚教材を作ってみたので、授業の一場面として指導案にそって紹介したい。そして、模擬授業で指導教官の先生にいただいたアドバイスや生徒役の同じ研修仲間の意見、そして研修で学んだことなど授業後の感想も最後に述べたいと思う。

2, 授業内容について(別紙 資料1 学習指導案参照)

- ①単元のねらい・指導計画等について
- ②本時の学習について
(別紙 資料1～4 参照)

3, 研修でのアドバイス

①生徒役の研修生より

・たくさん自由に書けたので楽しかった。

- ・ 久々に筆を持ったので最初書き始めるとき緊張した。授業の初めに何も考えずに一枚書くと安心できたかもしれない。でも生徒は普段書き慣れているので大丈夫かも。
- ・ イメージをふくらませるために、「視覚」以外にも触ったり、音を聞いたり、臭いを嗅いだり、いろいろなアプローチ方があると思う。いろいろな感覚をとぎすませるとおもしろい。
- ・ 評価の仕方について教えてほしい。

②指導教官より

- ・ 山のイメージで字が変わるという観点の教材は効果的だった。
- ・ 評価については何を妙の中身とするのか検討することが大切である。時中、時前の評価についても細かに研究されている勉強してほしい。
- ・ 漢字の意味を大切にしてほしい。「道」の成り立ちについて解説するなど文字の意味、漢字の意味も学ばせてほしい。
- ・ 線からどのような音がするか、形でどのように表現するか(構成法、用筆法など)、書の表現要素(渴筆、太さ)などについてもまた考えてほしい。
- ・ 生徒の作品を3枚黒板に張り出したことで、教室の空気が変わった。鑑賞空間を作ることは大切である。
- ・ 師範することで授業の空気が変わり、生徒も筆を置きやすくなり、効果的だった。
- ・ 言葉との向き合いも大切である。

4. 授業を終えて

(1) 楽しい授業について

この授業は生徒役の大人数相手の模擬授業、そして生徒への授業ともに楽しくできた。授業を行う対象によって関わり方や目的も変わってくるが、自らが楽しく学べる授業がいつもと改めて感じた。

(2) 意識を高める授業について

生徒の到達欲求はさまざまである。どこまでこだわり満足するか、できるだけ高く設定するために美しいものに触れさせたり、表現の喜びや書の魅力なども感じさせるなど意識を高める授業の工夫が必要だと思う。今回は、視覚教材を取り入れ、視覚で感じさせたいと試みた。プロジェクターを用意していると生徒も早くみたいと楽しみにしていた。教材のできればは、限られたかなり少ない時間で作成したため、使用した「山」の作品も貧相なものになったが、あまり立派なものではないので返って生徒も抵抗なく取り組めたのかもしれない。が、時間を見つけて作品は入れ替えたいと思っている。

そして必死に何度も練習している姿を見ているとTシャツに書くという設定も到達欲求を高めた一つの要素だと感じた。2色のTシャツ2枚を用意すると急遽自分の課題を変え、「父」「母」とそれぞれ書いた生徒もいた。両親にプレゼントしたいのだという。先のたくさん練習した課題の方がいいのにと残念な気もしたが、これも生活に書を取り込むという観点では成功かもしれないと思った。Tシャツの質はあまり良くないのでパジャマにするという意見が多かった。素材の選び方も大切である。

(3) 感性を育てる授業について

創作において、言葉を選ぶこと、造形すること、イメージを持つこと、表現の喜びを感じる（表現しようとする意識をもつこと）など大事なことはいろいろあると思うが、「感覚をとぎすませる」ことも大事な要素だと思う。芸術の授業だからこそできることの一つだと思う。今回は山の写真を取り込むことで、写真から感じる山のイメージと文字のイメージをも感じ取らせたいと思った。鑑賞の授業について、そして視覚以外でもまたいろいろな方法をまた考えていきたいと思う。又授業の最初に呼吸法を取り入れてみた。呼吸に意識を向けることで、考えることをやめ、無心になることが出来る。また音と文字との結びつきが出来、その結果表れてくる線もあると考えた。できあがった作品の中には味のあるものがいま一つもあった。

(4) 鑑賞と表現について

評価の観点では「表現」と「鑑賞」この2つの項目が並立されている。鑑賞の授業は難しいが、生徒の感性を育てるためには不可欠だと思う。臨書を行う中で自然と鑑賞活動も行っているし、鑑賞する事で、表現にも生かされる。鑑賞だけの授業を行ったり、今回の授業で行ったように授業の中の冒頭で取り入れてみる等、関連させながら授業に取り組むことも効果的だと思う。

(5) 自ら学ぶ授業について

もう一つの模擬授業で指導教官から「見て書くことで生徒は自ら学ぶ」とのコメントがあった。「見る」力がある生徒にはできるだけ教師は「自ら学ぶ」ことをさせたいと思うが、見えない生徒にはどのように「見る」力をつけさせるか、一斉授業にとってはそこが難しく、授業の工夫点の一つであると思う。教師が出過ぎても自ら学ぶ力とはならない。「書く」事と「学ぶ」ことのバランスをとることが大事だと感じた。

今回は生徒の感想は書かせなかったが、仕上がったTシャツを着て写真を写す生徒もいたり、満足げな様子を見ることが出来た。一生懸命取り組んだ結果自分の納得できる作品を誇りに思う様子が観察できてうれしかった。

芸術科書道Ⅱ 学習指導案

教室名書道室 指導者職・氏名
教諭 水上 真由美 (石川県立金沢商業高等学校)

指導日時 平成17年 9月 9日(金) 4 限目
対象生徒 総合情報ビジネス科 3年生 16人(31~37H 自由選択)
科目名 書道Ⅱ
使用教科書 書Ⅱ(光村図書)

1 単元名 漢字の創作

2 単元のねらい

- ・生活の中に書を取り入れようとする意識をもとうとする。【関心・意欲・態度】
- ・漢字の少数字作品の創作により、点画の組み合わせによる構成の多様さなどを学び、表現を工夫する。
【芸術的感受や表現の工夫】
- ・表現意図に応じた表現方法を工夫し表現する技能を身につける。【創造的な表現の技能】
- ・鑑賞により書の良さや美しさを味わい、表現との関連を図る。【鑑賞の能力】

3 指導に当たって

(1) 生徒の状況

3年次自由選択16名のクラスである。一年次に書道を選択しており、「きれいな字が書きたい。」「筆で書くのが好き」という生徒が選択しているため、皆一生懸命取り組んでいる。一年次と比べると人間的成長も伴い、豊かな線質が見られ、おもしろい作品ができあがり、様々な課題を与えることが出来る。ただ、能力的にはばらつきがあり、また要望も様々なため、生徒のニーズも考慮に入れつつ、生徒につけたい力を考え授業を行っている。

(2) 指導方針・方法

これまで培ってきた基礎を踏まえ、創作に入る。上手に書こうという意識を取り払い、自分らしさを表現させたい。言葉からくるイメージをはっきりさせ、自分が気に入る作品を目指し、書の楽しさを更に感じさせたい。また、気軽に書を書こうという意識を育て、飾ることも含め日常生活の中に書を取り込ませたいと考える。

(3) 教材選定の理由

これまで臨書で基礎的な力をつけ、漢字仮名交じりの書では創作を行い、自分の感動を大切に表現すること、そして様々な表現方法も学んできた。本単元では、少数字(一字)の創作からはじめることで、より意識的にバランスの取り方や線質に自分の表現方法(イメージなど)をとりこませたいと考える。参考作品も用い、自分の感性にあった創作を行う。

4 単元の指導計画(総時数7時間)

第1時 線をきたえる。

第2時 一字作品①自分のイメージを明らかにし表現する(本時)

第3時 一字作品②構成法を学び、表現方法を工夫する。

第4時 二、三字作品 配置のバランスを工夫する。

第5時 自分の好きな言葉を選び創作する①

第6時 自分の好きな言葉を選び創作する②

第7時 Tシャツに書く。

5 本時の学習 (第2時)

(1) 題 目 一字作品① 自分のイメージを明らかにし表現する。

(2) 本時のねらい

- ・自分のイメージにあわせ表現方法を工夫をしようとする。【芸術的感受や表現の工夫】
- ・自分のイメージにあった一字作品を作る。【創造的な表現の技能】
- ・鑑賞作品や古典作品を味わい、自分の表現に取り入れる。【鑑賞の能力】

(3) 準備・資料等 書道用具一式、プリント、参考作品、ワークシート、プロジェクター、パソコン

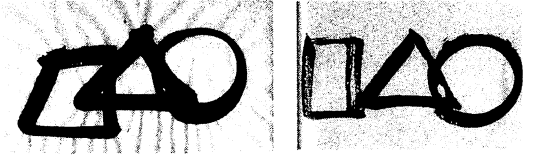
(4) 本時の展開

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・支援	評価規準 【観点】(評価方法)
導入 10分	出欠、準備	道具を準備し、墨を擦る	心を落ち着かせて墨を擦らせる	
展開 5分	本時の目標を知る	仙崖や他の人々の作品を鑑賞し、本時の目標の一つである線質と形、墨色の変化などについて確認する。	仙崖と他の人々の作品を鑑賞し見比べさせながら、本時の目標1を確認させる。	
5分		様々な「山」の作品を鑑賞し目標の二つめである文字とイメージの関係について確認する。	さまざまな「山」を参考例とし目標2を確認させる。	
15分	一字作品「道」「愛」を作る。 ①自分のイメージを描く。	ワークシートに記入し、書いてみる。 ①題材からイメージするものを書き出し、自分のイメージを明らかにする	ワークシートに記入させ、発表させた後、水書板で師範を行い、生徒に書かせる。 ※イメージが表現されているか、机間指導を行う。又、生徒の作品を黒板に張り出し、自分の表現意図を発表させる	自分のイメージを言葉で表現する。また自分の好みを知り、その作品の魅力に気づき、自分の表現に取り入れようと工夫する。 ・芸術的感受や表現の工夫 (ワークシート、観察)
10分	②古典作品を鑑賞し、自分の好きな作風を知る。 ①②の目標でイメージに合わせ創作する。	②いろいろな作品の中から好きなものを選び、参考にする。 ①②の要素、更に自分の良さを出すことを念頭に置き作品を作る。	「道」「愛」の漢字の語源について解説する。 どんなところが好きなのか意識させ表現させる。 自分のイメージが表現されているか、また、自分が好きな作品となったか確認させる。 ※机間指導を行い、努力を要する生徒には口頭で又は師範や実際に筆を執って個別に指導する	自分のイメージを作品に表現する。 ・創造的な表現の能力 (観察・作品)
終末 5分	後かたづけ	道具を片付け、作品を提出する。	道具は丁寧に扱わせる。	

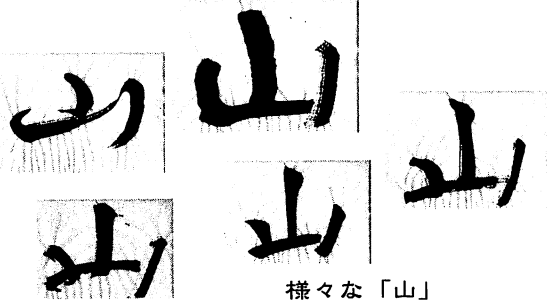
漢字作品創作（一字作品）

- ① イメージして書く。
- ② 素直な気持ちで書く。
- ③ 表現方法を工夫する。

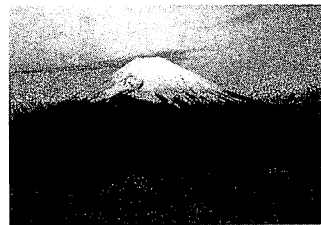
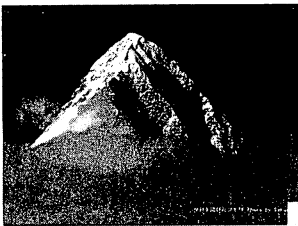
どちらが仙崖の作品？



①イメージを膨らませて書く。

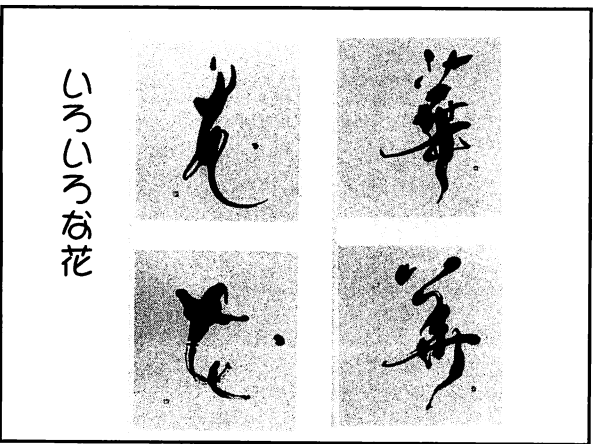
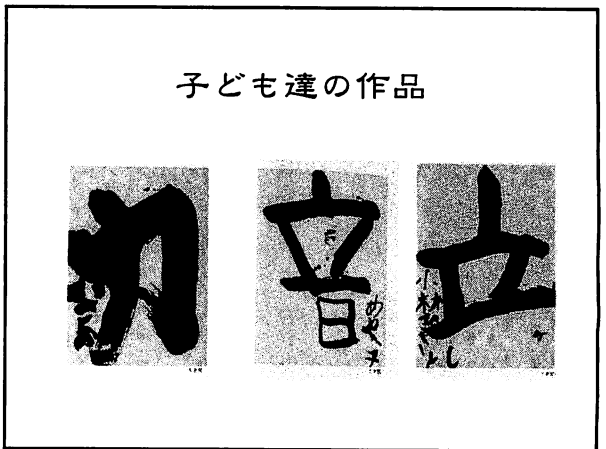
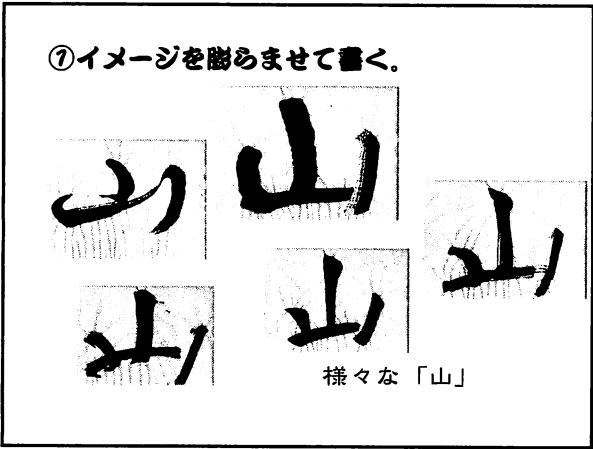
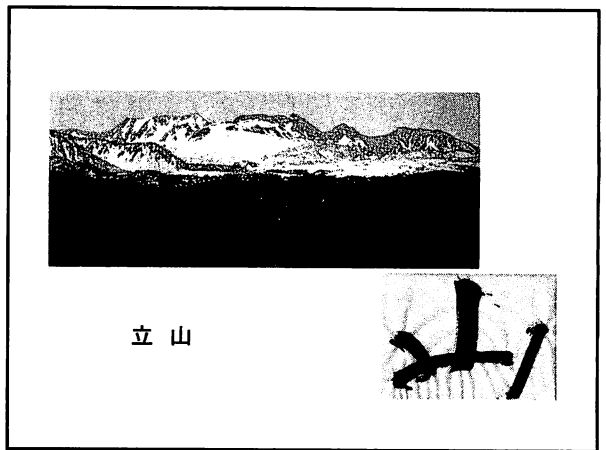
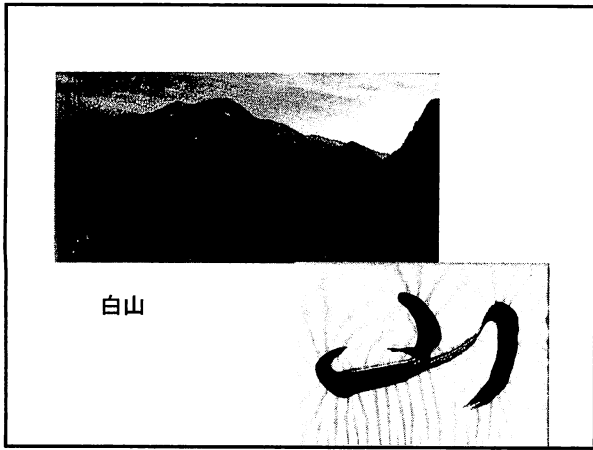


さまざまな
「山」



富士山





〈資料3〉

一字作品を創作する。

題材「道」又は「愛」

■どちらの文字を書きますか。『 』

①イメージしよう。

◎それぞれの言葉からイメージするものを思いつく限りあげてみよう。
例「道」・・・長い 凸凹 ゆるやか

◎どのイメージで表現したいですか。絞ってください。

②参考作品を選ぼう。

古典作品の中から好きな文字を選び書いてみよう。自分のイメージとびつたりくるものはありませんか。又、その文字からどんな感じがするか。どんなところが好きか。言葉で表現してみよう。

() の作品

() の作品

★ 墨色、線質、形、勢いなどはどうですか？

〈資料4〉



蘇孝慈 蜀帖



蘇孝慈 蜀帖



道因法師 碑



欣協 史事帖



十七 帖



西狭頌



興福寺 斷碑



王羲之 澄淸堂帖



智永 千字文 寶墨軒本



陳辨



木簡



説文



吳讓之



程母 帖



唐太宗 淳化閣帖

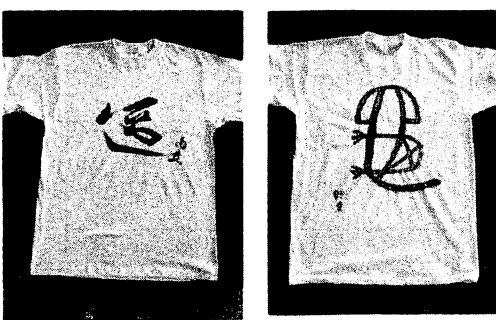
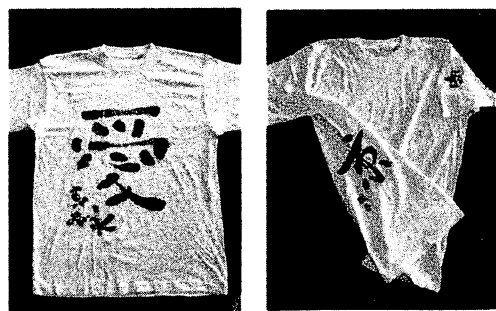


蔡經 稿



龔亂 帖

〈資料5〉



平成17年度 年間学習指導計画表

教科	科目	単位数	担当者名	印	実施クラス	
芸術	書道 I	2	水上真由美		11～17H	
指導目標	書の実しさや魅力を知り、書を愛好する心情を育てる。臨書活動、創作活動、鑑賞活動を通し、豊かな感性を育てる。また表現能力や鑑賞能力を養う。					
月	指導の目標	単元 (大項目)	教材 (中・小項目)	指導内容と工夫	評価の規準 (評価の観点)	配時
4	学習内容を理解する	書と美 書道入門	書の美について 文房四宝、墨の擦り方 執筆法、姿勢 自分の字で表現する	様々な書に触れ、多彩な美や、古典価値、書の魅力を感じさせる。 一年間の心構えを持ち、基本姿勢やとりくみ方を理解する。 用具用材について理解し、大切に扱う態度を養う。姿勢、執筆法を身につけさせる。 一(二)年間の目標を書て表現させる。	書にとりくもうとする姿勢、興味、関心意欲づけができたか。	2
5	様々な表現方法を知り、感動を書て表現する	漢字仮名交じりの書①	作品鑑賞 言葉に感動する 様々な表現方法	現代の様々な書を鑑賞させる。 心打たれる言葉に出会い、心を込めて、表現させる。 いろいろな表現方法を知り、工夫させる。	一生懸命表現し、喜びを感じることができたか。表現の仕方を工夫できたか。	8
6	楷書の様々な書風の特徴、魅力を理解し表現する	楷書	永字八法 九成宮醜泉銘 孔子廟堂碑 孟法師碑	基本的な用筆・運筆法について理解し、表現させる。 初唐三家の特徴について理解させる。 線質(筆圧・呼吸)等の魅力を感じさせる。 様々な表現方法や雰囲気の違いを感じとらせ、表現させる。	楷書の用筆、運筆法の基本ができたか。初唐三家の特徴魅力を知り表現することができたか。様々な作風を知り、自分の好みや得意な表現方法を知ることができたか。	13
7	書を生活の中に生かす	生活の中の書①	うちわ制作	一学期の成果をふまえ、自由に表現させる	創意ある表現ができたか。	2
9	行書の特徴を理解し、表現する	行書	行書の特徴 蘭亭叙 風信帖	行書の特徴について理解させる。 行書の運筆法(筆圧、リズム、呼吸、気脈)について理解し、表現させる。 臨書作品を制作させる。	行書の特徴を理解できたか。筆圧、気脈等運筆法について理解し表現できたか。	14
10	仮名の美しさを学ぶ	仮名の書	仮名の線 単体・連綿・変体仮名 高野切第三種	日本古来からの仮名の美しさについて理解させる。 美しい線が引けるように練習させる。 連綿、構成の精妙さを理解、表現させる。	美しい線を引くことができたか。仮名について、又、美しさ精妙さを理解できたか。	8
12	書を生活の中に生かす	生活の中の書②	クリスマスカード・年賀状 本年の目標(書き初め)	日々の生活の中に書を取り入れさせる。 これまでの成果を表現させる。	創意ある表現ができたか。気持ちを書て表現できたか。	3
1	篆刻の表現方法を理解し、実践する	篆刻	落款印	篆刻作品を鑑賞させる。 篆刻の方法を理解し、自分の名前の落款印を制作させる。	篆刻の方法を理解し、効果的に制作できたか。積極的に取り組み楽しむことができたか。	10
2	感動を書て表現する	漢字仮名交じりの書②	作品鑑賞 感動を表現する	感動を自分の言葉で、書て表現させる。 一年間の成果をふまえ創作させる。自分で作成した落款印を押し、掲示することで達成感を味わわせる。	自分の感動を効果的に表現し、表現する喜びを感じることができたか。	7
3	書を生活の中に生かす	生活の中の書③	感謝の手紙 硬筆	一年間の成果をふまえ、書で気持ちを込めて表現させる。 生活の中に書を取り込み、生かそうとする姿勢をもたせる。	相手に心を込めて表現できたか。書を生活の中に生かすことができたか。	3
合計時数						70

平成17年度 年間学習指導計画表

教科	科目	単位数	担当者名	印	実施クラス	
芸術	書道Ⅱ	3	水上真由美		3年選択 3C	
指導目標	書の美しさや魅力を知り、生涯にわたり書を愛好する心情を育てる。臨書活動、創作活動、鑑賞活動を通して、豊かな感性を育てる。また個性豊かな表現能力や鑑賞能力を伸ばす。					
月	指導の目標	単元 (大項目)	教材 (中・小項目)	指導内容と工夫	評価の規準 (評価の観点)	配時
4	学習内容を理解する	オリエンテーション 書と美	書の美について 一年間の目標について 自分の字で表現する	様々な書に触れ、多彩な美や、古典価値、書の魅力を感じさせる。 一年間の心構えを持ち、目標を書て表現させる。	書にとりくもうとする 姿勢、興味、関心意欲づけができたか。	2
5	様々な書風の特徴を理解し、自分にあった表現をする	漢字の書① 楷書 行書	作品制作Ⅰ (臨書)	書道Ⅰで学んだことを復習し、筆づかいに慣れさせる。 様々な古典作品の中から自分の好きな作品を選び臨書作品を制作させる。	様々な作風の中から自分の好みや得意な表現方法を知り、表現することができたか。	14
6	表現の幅を広げる	古代文字 篆書 隸書	石鼓文 礼器碑	古代文字が持っているリズム、線質について学び、表現し、表現の幅を広げさせる。	篆書、隸書の用筆、筆圧、気脈等運筆法について理解し、表現できたか。	10
7	書を生活の中に生かす	生活の中の書	硬筆 葉書(暑中見舞い)	様々な書式を学び、美しい字形や線質を学び、表現させる。 気持ちを込めて丁寧に表現させる。	硬筆の基本を学び、表現できたか。気持ちを込めて、創意ある表現ができたか。	10
9	様々な表現方法を理解し自由に表現する	漢字の書②	作品制作Ⅱ	様々な表現方法を学び、創作する。 (筆使い、気脈、構成の仕方(少数字))	様々な表現方法を学び、自由に表現できたか。	15
10	仮名の美しさを学ぶ	仮名の書	いろは歌 高野切一種 三色紙	いろは歌を呼吸に気をつけて書かせる。 一年時の学習をふまえ、奥行きのある線質や散らし書きについて学び表現させる。	奥行きのある線を引くことができたか。散らし書きの構成の美しさ精妙さを理解できたか。	15
11						
12	書を生活の中に生かす	生活の中の書	硬筆・クリスマスカード・年賀状 本年の目標(書き初め)	日々の生活の中に書を取り入れさせる。 これまでの成果をふまえ、表現させる。	硬筆の美しい線、形が理解できたか。創意ある表現、気持ちをこめた表現ができたか。	12
1	感動を書で表現する	漢字仮名交じりの書	鑑賞 感動を表現する。 作品を表具する。	感動を自分の言葉で、書で表現させる。 一年間の成果をふまえ創作させる。自分で作成した落款印を押し、掲示することで達成感を味わせる。 自分の作品を表具することにより、作品への愛着、書を生活の中にとりこもうとする意識を高めさせる。	自分の感動を効果的に表現し、表現する喜び、達成感を感じることができたか。 書を生活の中にとりこもうとする意識が高まったか。	15
2						
3	書を生活の中に生かす	生活の中の書	感謝の手紙 硬筆	これまで身につけた成果をふまえお世話になった人に気持ちを込めて表現させる。 生活の中に書を取り込み、生かそうとする姿勢をもたせる。	相手に心を込めて表現できたか。書を生活の中に生かすことができたか。	12
合計時数						105

生活に生きる書写の授業をめざして — 4年 「招待状を書こう」(硬筆)の授業を通して —

金沢市立泉野小学校 佃 さえ子

大会サブテーマ～自ら生活に生かせる確かな書写力をはぐくむ授業とは～

<はじめに>

意欲的な学習態度で、積極的に発言する子が多く、言葉を大切にしようと言う意識を持っている子も少なからずいる。また課題に対し真面目に取り組む子が多い。という年度当初の印象であった。しかし、文字を書くことに関しては、早く書き終えたいとの思いからか、乱雑であったり、漢字をきちんと覚えていなかったり、点画に注意をはらっていなかったりする子が多かった。また、毛筆書写でも、三年生で学習した横画や縦画などの筆づかいが身につけている子は限られていた。そこで、文字に興味を持たせ、日常的に字形を整えて書こうとする意識を育てていきたいと考え、書写の授業に取り組んできた。

<漢字学習>

年度当初は文字を書く際、画の長さや止め・はね・払い・折れ・曲がりに無頓着で、なぞり書きも雑な子が多かったので、新出漢字の学習の際に、ドリル帳のなぞり書きや升目ノートの升目などを利用し、画の長さや止め・はね・払い・折れ・曲がりなどを意識して書くように指導してきた。その際一画一画を丁寧に、強い線で書くように指導した。新出漢字の学習を通して、弱々しい線で、どこで止めたのか、払ったのか、はねたのか分からない文字を書く子は、少しずつ減っていった。

<書写の授業>

課題に真面目に取り組む子どもたちであるので、課題解決型の授業とし、課題を解決するために、個々が見通しを持って学習できるようにしたいと考えた。

「画の方向」の学習では、毛筆で「麦」「冬」を試書した後、点画ピースを使って画の方向を確かめることで共通の学習課題を持つことができた。硬筆では、既習の漢字から仲間を探し分類することで、共通の部分を持つ文字を見つける楽しさや、毛筆で学んだことを他の文字に生かす喜びを子どもたちは感じとってくれたように思う。

漢字学習や書写の時間の学習を通し、漢字学習や書写の時間には文字を丁寧に書こうとする子が増えたが、生活の中に生かすという意識はないようだった。自分の書いた文字が

読む人にどんな印象を与えるか、ということあまり意識していないからではないかと考え、夏休み明けから「招待状を書こう」(硬筆)の学習に取り組んだ。

本校は運動会を秋に開催しているので、家族へ運動会の招待状を書くことが読み手を意識させるには最適の教材であると思い、4年の書写の教科書教材である文字の配列(横書き)の学習とからめて単元構成を考えた。

・「招待状を書こう」

招待状を書くにあたって、子どもたちに、文字が伝える印象の違いを感じ取ってほしいと考えた。本校は校区に商店街やお寺などが多く、新旧様々な建物や看板・案内板などがある地域である。子どもたちの身近に、どんな文字があり、どんな特徴があるのか写真やパンフレットを見て話し合った。子どもたちは、いつも何気なく見ている文字が、伝えたい内容によって書き方が違っていることに気付き、自分はどんな思いを伝えたいからどういう風に書こうかと考えはじめたようである。

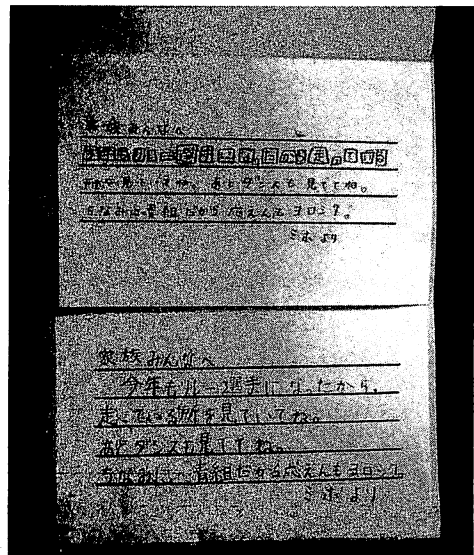
子どもたちは、家族に「頑張る気持ちを伝えたい。」「成長した姿をみてほしい。」「練習を真剣にしてきたことを伝えたい。」との思いを持っていて、真面目な気持ちが伝わるような招待状を書きたいということだった。

招待状には、表紙の部分と本文の部分があるが、本文は文字数が多くひとりひとり文面が違っている。そのため一文字一文字の字形をみんなで共通の課題とすることは難しい。

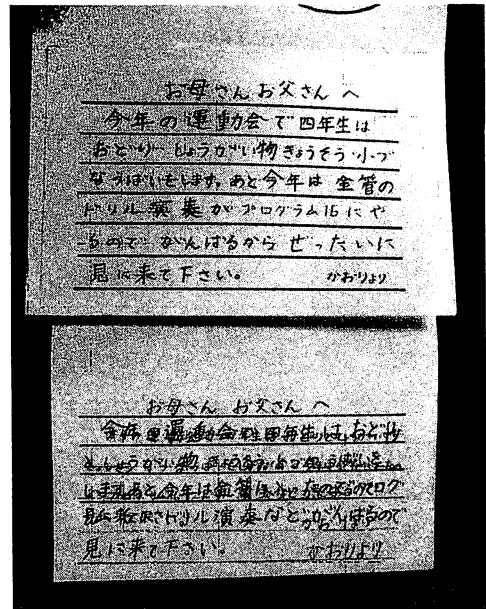
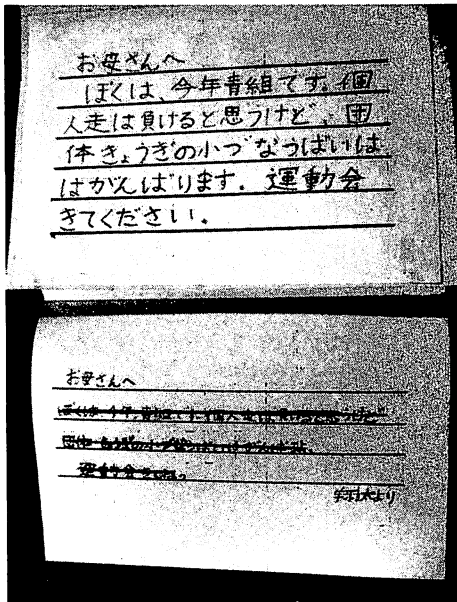
招待状を書くにあたって、文字の大きさや配列が乱れた例と配列の整った例を見せたところ、子どもたちは、伝わる印象の違いを感じ取ったようで、行を整えて書きたいとの意欲を持つことが出来た。そこで、まずは書写の教科書の文で横書きの文字の行の整え方を学習し(「配列を考えよう」)、次にそれを発展させ自分の招待状の文を練習し、招待状を書き上げた。

教科書の文で、漢字と仮名の大きさや、行の整え方(文字の横の中心を行の中心にそろえて書く…中心線の入った練習用紙、文字を下線のそろえて書く…補助線の入った練習用紙)を2時限で学習した。

文字の大小については、書いた文字の外形を取って大きさを確かめたり、教科書と見比べながら自己批評したりすることで、自分の書いた漢字やひらがなの大きさの適否を知り学習の見通しを持つことが出来たようだ。



行の整え方は、例文を二通りの整え方で練習用紙を使って書くことで、自分なりに書きやすいと感じる書き方を見つけ招待状の文を書く時に生かそうという意欲につながったように思う。



その学習をふまえて自分が書きやすい行の整え方で招待状の本文を書いた。練習用紙は教科書の時と同じ物を用意し、練習用紙と同じ線の入った下敷きも用意した。練習では同じ課題を持つ者同士で相互批正を行った。同じ課題を持つ子が近くにいなかったり、書く速度が違ったりして戸惑う姿も少し見られたが、お互い真剣にアドバイスし合いそれを生かして招待状を仕上げようとする姿が見られた。

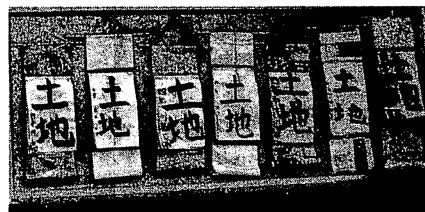
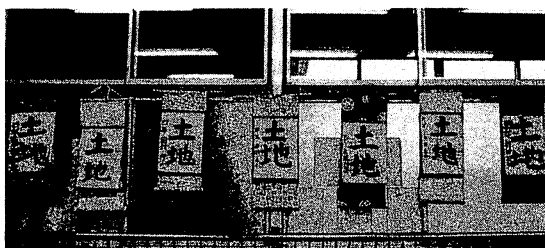
行の整え方は自分が書きやすい方法で書くよう指導したところ、中心をそろえて書こうとする子が多かった。その子たちの中には下線にそろえた方がうまく書ける子もいたが、途中で助言しても最初に決めた方法でやり通したいと意思表示する子が多かった。

書写の時間では、試し書きからすべての作品をファイルに保存し、振り返りを積み重ねてきた。最初のものとは仕上げたものと見比べることで上達を実感し、書く意欲や充実感はいわゆることが出来たようだ。しかし、自分の書いた文字の問題点を見つけ出し、出来ないところは何かを見つけることのできる力がついていないと、練習方法や行の整え方で、より自分にあった方法を選ぶことが難しかった。多くの子に共通する文面を二通りの方法で示範するなどして、自分の書いたものと比較させるなどの手立てをとればよりよい方法を選択する助けになったと思われる。

これまでも書写の授業で自己批評，相互批評などを取り入れ書いた文字を見つめる時間を設定したり，試し書きから課題を見つけ，練習用紙を数種類用意し自分の課題を解決するための見通しが持てるようにしたりしてきた。しかしまだ不十分で，これからも自分の書いた文字を，批評する力を育てていかねばと考えさせられた授業であった。

<今後に向けて>

自分が書いた文字の与える印象を良くしたいとの願いを持ち，丁寧に書こうと意識している子どもでも，うまく書けるようになったという満足感が得られなければ意欲は半減してしまう。一つ一つの文字の字形の整え方を学ぶには毛筆が分かりやすいのだが，毛筆はその時間の課題がクリア出来ても，既習の筆づかいなどの技能が身につけていないと子どもたちは上達したという実感を得にくい。また毛筆で学んだことを生活に生かしていくには見る目を育てていくことが欠かせない。年間約30時間の書写の時間を有効に活用し，子どもたちの視角に訴えかけ，子どもたちが上達を実感できる方法を探っていきたい。



メディアを使った書写の授業 ～書写コンテンツの作成とその活用～

金沢市立大徳小学校 飯田淳一

1. はじめに

これまで書写の授業は、自分自身がうまく示範できないことや、どう指導すれば効果的なのかよくわからない等、毛筆指導に自信がなく、あまり力を入れてこなかった。

特に水書版を使って筆使い等を演示し教えることは、慣れない者にとってかなり難しい。

しかし今やコンピュータが教室にあり、デジタルコンテンツも充実している時代である。それらをうまく活用していけばよいのではないかと毛筆指導用のコンテンツを探したが、インターネット上には思うようなものがなかった。さらに探すとM社やT社の指導書には付録としてCD-ROMが付いていることがわかり、教師の演示用としてM社のものを授業で使ってみた。

しかしこのコンテンツは、毛筆の基本的な筆使いの学習を目的に作られており、演示用に使うためには、以下のような点をふまえたものにする必要が感じられた。

- ・基本の点画のみならず、書く字全体を示したものがほしい。
- ・動画部分を途中で止めて、くり返してポイントを押さえられるようにしたい。
- ・撮影の角度の関係で、よくわからない部分がある。
- ・音声の解説とともにBGMが入っているが、これは必要ない。

そこで、これらを解決し、実践例なども簡単に閲覧できる毛筆書写指導用のデジタルコンテンツを作ろうと考えた。

2. 開発の目的と方法

毛筆の指導において、教科書に準拠し、主に教師が示範用として使える、動画を基本としたコンテンツを作成し、データベース化することを目的とする。

コンテンツ作成は書写書道教育連盟のメンバーと一緒にやる。特に動画部分は実際に半紙に書く様子を撮影するので、重要である。最終的には、3年生から6年生までの全ての単元を網羅し、指導のポイントなどを明らかにするだけでなく、これまで連盟に所属し研究を重ねてきた先生の実践例や便利なグッズなども紹介し、一般の教師の啓発に役立つものとする。

作成したコンテンツは授業で使用し、その使用感および子どものアンケートから改善を図っていく。なお加工のしやすさと、インターネット上にデータを置いて活用することができるようにhtml形式で作成する。

3. コンテンツ開発の設計思想

開発の設計思想として、以下の4点を考えた。

- (1) 水書板での指導に代わるものにする

動画データを用いることで、水書板の使いにくさを解消する。

①水書板の書きづらさを解消する。

- ・普通の筆で、普通に書ける。
- ・緊張しなくてよい。

②水書板の見えにくさを解消する。

- ・全ての子どもから字が見える。
- ・示範のときに子どもの方を向ける。
- ・字が乾かないで残る。

③水書板の使い勝手の悪さを解消する。

- ・くりかえし見せることができる。
- ・前時や前単元の復習ができる。

(2) デジタルのよさを活かす

授業場面を想定し、デジタルのよさを活かしてコンテンツを作成する。

①停止・再生を可能にする。

- ・何度もくり返し見ることができる。
- ・止めて解説をすることができる。

②データを効果的に加工して用いる。

- ・補助線などを入れて見せることができる
- ・ポイントを押さえた、より詳しい解説を入れることができる。

③共有を可能にする。

・大きく写すことで画面の共有ができる。

・データベースとしていつでも誰でも使うことができる。

・指導の系列（学習の足あと）がわかる。(図1)

基本の点										
筆の持ち方		姿勢		道具について		準備・後始末				
たて顔	よこ顔	左ほらい	右ほらい	おれ	曲がり	はわ	点			
題 材										
三年	二	十	小	大	月	ビル	にし	はと	白いはと	冰山
四年	光	虫	里	林	左右	力走	ゆず	元気	元気な子	生命
五至	歩み	緑	雲	草原	仲間	じむ	社	希望	希望の春	愛 外 国 自然を守る
六年	登る	道	湖	夕顔	情熱	はやぶさ	爽しい 港	創造	創造する 心	幸福 深い友情 飛び立つ 鳥

おすすめの授業				
かみじくを作ろう	書き初め	色紙に書こう	カレンダーを作ろう	絵手紙をかこう
大切な言葉	招待状を作ろう	筆ペンを使って	デザイン文字に挑戦	漢字をパターン化

お役立ちグッズ			
書きハッグ 練習用紙	点陣ベース 筆洗いの工夫	示範の工夫 クリアシート	追究コーナー 筆ペン

図1 トップページ

(3) 操作しやすいレイアウトを工夫する

教師の示範用が主目的ではあるが、子ども自身が操作することで興味関心を高めたり自習用にも使えるように、操作しやすいようにレイアウトを工夫する。

(4) 教師に役立つ情報を盛りこむ

指導のポイントのみならず、書写書道連盟がこれまで行ってきた実践や便利な用具を紹介し、教師への啓発を行える内容とする。

4. 撮影の工夫

書いていく様子を表示するために、パソコンのアニメーション作成ソフトで作成する方法もあるが、あえて実写にこだわり、書き手の存在を意識させるようにした。筆使いのみならず筆の運びやリズム、呼吸をイメージできる動画を作成するのである。

しかし書いていく様子を撮影するとき、どうしても筆とそれを持つ手が映ってしま

う。そしてそれらが映らないように角度を変えて撮影すると字がゆがんでしまうという困った状態になる。

そこで、字がゆがまず、筆や手に隠れないように撮影するために以下のような方法を工夫して動画データを作成した。

- ①透明なアクリル板に直接半紙を置き、墨の量を調節しながら書く。
- ②アクリル板の下から裏写りしている様子をビデオカメラで撮影する。
- ③撮ったものをパソコンに取り込み、ビデオ編集ソフトで反転させ、データ化する。

パソコンでのビデオ編集ソフトを使うと、画面の中に中心線を入れたり、ポイントを埋め込んだり、色合いや明るさを調整したり、また速度を変えたりという加工が容易にでき、たいへん便利である。使用ソフトウェアは adobe Premiere Elements1.0。

なお、筆使いを見せたい場合は上からアップで撮影しデータ化している。

5. 5年「もみじ」での実践

(1) 作成したコンテンツについて

この単元は、平仮名の字形と行の中心を考えることを学習する単元である。平仮名の筆使いも書くときの大きな学習事項となると考え9種類の動画データを作成した。

- ・ふつうに演示するもの
- ・外形の線を入れたもの
- ・中心線を入れたもの
- ・一文字ずつ再生されるもの（も、み、じ）
- ・筆使いがわかるもの（もの曲がり、みの結び、じの点々）

またテキストとして、課題の提示と外形についての説明を入れた。（図2）

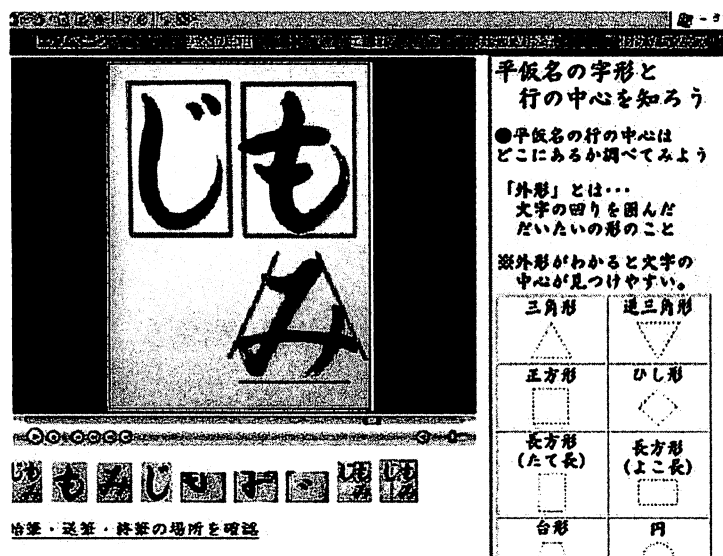


図2 作成したコンテンツ「もみじ」の単元

(2) 授業の流れ (3時間扱い)

①第1時

作成したコンテンツを見せることで、どのくらい子どもの字が変わるのを確かめたかったため、次のように授業の流れを組んだ。

まず教科書をよく見て1枚書かせた。(写真1, 2左側)

次にノートパソコンをプロジェクタにつなぎ、スクリーンに映し、コンテンツを用いて動画での演示、外形の線を入れたものを何回か見せて書き順や気づいたことを発表させ確認した後、2枚目を書かせた。(写真1, 2真ん中) ここで仮名の字形について学習した。

そしてさらに、一文字ずつ再生するものと筆使いのアップを見せた後3枚目を書かせた。(写真1, 2右側)

練習無しで3枚しか書いていないにも関わらず、写真1, 2のように筆使いおよび字形にはっきりと変化が現れた。

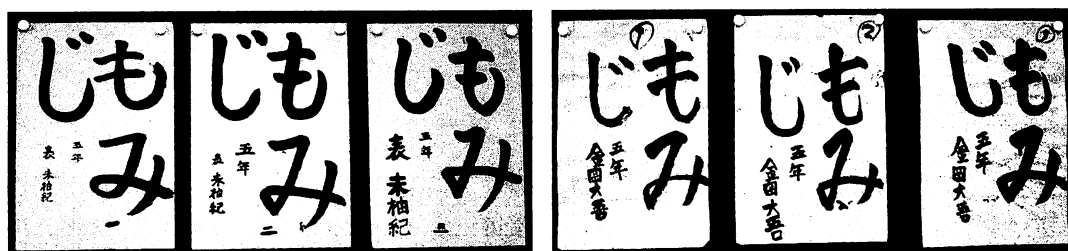


写真1 左から1枚目・2枚目・3枚目

写真2 左から1枚目・2枚目・3枚目

②第2時

第2時は第1時で特に変化の大きかった5人の3枚を黒板に並べて貼りだし、どこがどう変わったかをみんなで話し合ってから、コンテンツを一通り見て確認した。ここで行の中心を意識させた。そしてまとめ書きを1枚出すことを課題として、各自練習に入った。コンテンツは自由に触ってよいことにし、見たいところをくり返し見に来てよいことにした。

練習時にはできるだけ子どもの間を回り、声かけをし、ポイントを確認し、苦手な子には一緒に筆をもって書いて回った。約半数の子にポイント確認と一緒に筆を持って書くということが初めてできた。写真3は変化が最も大きかった作品である。

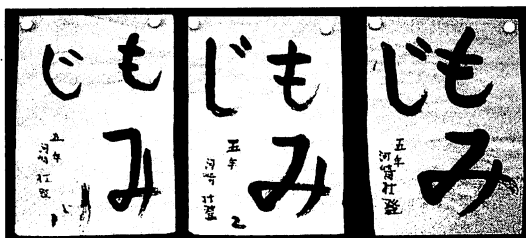


写真3 左・中が第1時 右がまとめ書き

③第3時

硬筆ノートを用いて行の中心を意識させながら書かせた。ノートの中にポイントとして書かれてあるので、この時間はコンテンツは利用しなかった。

(3) 第2時の後のアンケートの結果

アンケートを集計しているうちに、第2時に声かけしたり、個別にポイントを確認したり一緒に書いたりした子とそうでない子の回答に差があったので分けて集計して傾向を見てみた。

① 「外形」がわかったか (表1)

	全体	声かけあり	声かけなし
よくわかった	25%	6%	19%
わかった	75%	45%	30%
よくわからない	0%	0%	0%

② 気をつけるポイントがわかったか (表2)

ア 「も」の曲がり	全体	声かけあり	声かけなし
よくわかった	24%	15%	9%
わかった	70%	37%	33%
よくわからない	6%	0%	6%

イ 「み」の結び	全体	声かけあり	声かけなし
よくわかった	55%	40%	15%
わかった	36%	9%	27%
よくわからない	9%	3%	6%

ウ 「じ」の点	全体	声かけあり	声かけなし
よくわかった	30%	18%	12%
わかった	52%	24%	28%
よくわからない	18%	9%	9%

③ 清書はうまく書けたか (表3)

ア 「も」の曲がり	全体	声かけあり	声かけなし
うまく書けた	45%	27%	18%
まあまあ書けた	49%	21%	28%
うまく書けなかった	6%	3%	3%

イ 「み」の結び	全体	声かけあり	声かけなし
うまく書けた	54%	35%	18%
まあまあ書けた	40%	12%	28%
うまく書けなかった	6%	3%	3%

ウ もみじのできに	全体	声かけあり	声かけなし
とても満足	9%	9%	0%
まあまあ満足	58%	34%	24%
ちょっと不満	9%	0%	9%
かなり不満	3%	0%	3%

④ パソコンの表示はどうだったか (表4)

	全体	声かけあり	声かけなし
とてもわかりやすかった	36%	18%	18%
わかりやすかった	64%	34%	30%
よくわからなかった	0%	0%	0%

⑤ コンテンツのよかった点と改善点

ア よかった点	イ 改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい 大きいから 書き順が確認できるので 外形が表示されるので ゆっくりと書いてくれたので 一文字一文字書いてくれるので 字の形がわかりやすい ・文字を実際に書いているのがいい ・自分で操作できる ・字が上手だった 	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょっと字の薄いところがあった。 もっと墨をつけたらいい ・説明をつけたらいい もっと一文字一文字がわかったらいい 外形のようにクリックすると説明が出てくるといい もう少し難しいところのポイントを書いてあったらいい もう少しゆっくり書いてあるのが見たい

6. 考察と今後の課題

表4や⑤の自由筆記に見られるように、作成したコンテンツやパソコンを使った演示は子どもたちに「わかりやすい」と好評だった。

特に「み」の結びに関して子どもの要望に応じ何回も見せたため「よくわかった」の割合が55%と非常に高い。(表2のイ)

一方「じ」の点に関しては1回しか見せなかったため、「よくわからない」の割合が比較的高い結果となった。(表2のウ)

ポイントを押さえ、繰り返し見せることで理解が深まる。そして書く意欲が高まったことは授業中の様子からも明らかだった。

また練習中に個別にポイントを確認したり、一緒に筆を持って書いてやると子どもの理解度がさらに上がることが明らかになった。(表2のアイウ) またその場合に満足度も上がることがわかった。(表3のウ)

このことに関して、コンテンツを作成、活用することで、書写の時間を苦手としていた教師自身が指導のポイントがわかり、子どもと一緒に書くことが増えたことが一番大きな変化であり、良かった点として挙げられる。

今回実践してみて、書くときのポイントや課題をはっきりと提示し、意識づける教師側の手だてがこれまで弱かったことを痛感した。コンテンツの活用を通して、これからの授業の改善を図ることが可能である。

このコンテンツは教師にとっても子どもにとっても効果があることが明らかになった。水書板に取って代わる可能性は大いにある。

ただ、まだまだ試みの段階であり、これらを授業のどの場面で使うかという点についてはさらに実践を重ね、より良い活用法を見いだしていく必要がある。

今後なるべく早いうちに、他の学年や他の単元でのデータを充実させ、多くの人に活用してもらい、よりよいものにしていくことが課題である。

研究協議会Ⅱ

「授業実践にむけての具体的手立てを探る～授業実践から～」

[高等学校]

実践発表 「プレゼンテーション・ソフトを使った視覚教材の一工夫」

～漢字の創作（Tシャツに書く）に向けて～

発表者 石川県立金沢商業高等学校 教諭 水上真由美

司会 田中 学（金沢伏見高等学校） 記録 中尾 知巳（西南部中学校）

助言者 江尻祐子（石川県教育委員会学校指導課指導主事）

◆実践報告内容

- ・教師と生徒が共に楽しく学べる授業となるように心がけた。
- ・表現の喜びや書の魅力を感じさせるものにすることや生活に書を取り込むという観点を大切にした。
- ・授業の最初に「呼吸法」を取り入れることを試みた。呼吸に意識を向けることで、無心になり、できあがった作品には味のあるものがあった。
- ・「書く」ことと「学ぶ」ことのバランスが大切であることを感じた。

◆質疑応答、感想・意見

- ・子どもたちの興味・関心を引き出す楽しい授業であると感じた。
- ・「愛」や「道」の字が詩的で「書きたい」「やってみたい」と思わせるものであった。しかも、それでいて自分勝手にならないように基礎・基本を踏まえている点が良いと思った。
- ・Tシャツは洗濯ができるのであろうか。
 - 実際に試していないのでわからない。
- ・呼吸法とはどのようなものか。
 - 腹式呼吸でおこなう。「いー」と声を発しながら字を書く。
- ・書を絵画のように捉え、文字性を軽んじるようになると危険である。
- ・年間指導計画（カリキュラム）をしっかりと作り、基礎・基本を大切にしようという発展的に行うことが大切。今回は、ねらいがはっきりしていてよい。
- ・子どもたちの書くことへのモチベーションを高めるきっかけとして良い面があると思う。
- ・書写・書道の世界に埋没していかないようにする視点が大切であり、日常生活における書道の効用という意味でもよかった。
- ・漢字一文字での表現方法はよい。
- ・教師一人ひとりの技術性・専門性が重要である。

研究協議会Ⅱ 小中学校

⑤実践発表 「生活に生きる書写の授業をめざして」 4年 「招待状を書こう」(硬筆)の学習を通して

記録 中央小学校芳齋分校 吉田美晴

この発表は、金沢市立泉野小学校の佃さえ子先生の実践である。保護者あての運動会の招待状を書く活動を通して、文字が伝える印象の違いを実感したり、横書きの文字の行の整え方を学習していった。硬筆・横書きの日常化への取り組みである。

質疑応答より

○国語科等の他教科と「書写」をからめた取り組みの紹介

- ・ ゲスト teacher への手紙を書くことで、何を伝えたいか相手意識によって書き方を変えていくことの大切さを実感した実践
- ・ 卒業制作を兼ね自作の俳句を習字して字配りを考えて製作を行った実践

○硬筆の横書きの指導について

- ・ 教科書では、文字を真ん中でそろえる方法と下の線でそろえる方法の2通りの例がのっている。日本語文化の文字の性質上、真ん中でそろえる方法が文字ががたつかないので、それを児童に伝える効果的な指導を望む声も聞くことができた。

助言者より

○言語活動を行うなかでの書写の活動を取り入れた実践である。今回の書写のねらい(文字の大きさと行の整え方)である力をどうつけるかというために、相手意識・目的意識を大切にしたい気持ちを伝える招待状作りを取り入れた活動であった。

○国語科との関連付けとして、既習の学習事項を確認した上でこれからやるべきことを把握して実践してほしい。系統性・関連づけを意識することが効果的な指導につながる。

○今後は効果的な相互批正のやり方が望まれる。

⑥実践発表 「メディアを使った書写の授業」 書写コンテンツの作成とその活用

この発表は、書写の授業に教師の示範用の動画を基本としたコンテンツを導入し、実際に授業に取り入れた実践報告である。データベース化の第1歩を踏み出した取り組み。

質疑応答を含めた会場からの意見

○驚きと感動の実践。最近の子ども事情に合ったパソコンを利用した指導。子どものアンケートから、コンテンツを使うこと以上に、それを使用することで生じた教師の時間を子どもへの声かけなどの指導にまわすことで指導がより効果的になったことがわかる。

○教師の示範も効果的。一方で、VTRを利用した指導も、学習者と一緒に画面を見ることでどんな所をどんな目で見ているかを教師が理解することができるという利点もある。

○静止画の教科書手本から筆の動きを見ることが出来る動画での手本が可能になった。

助言者より

○書写授業の中でのメディア利用の実践である。人間/パソコンだからできること・できないことを教師がしっかり把握した上で、それぞれの良い所を授業のどこで、どんなふうに使ったらいいか常に意識して実践を進めることが大切。今後の広まりを期待する。

大会に参加して

第16回石川県書写書道教育研究大会に参加して －硬筆学習の実践発表から－

金沢高等学校教諭 吉田 和男

この度の第16回石川県書写書道教育研究大会においても、全国大会参加報告、並びに高等学校・小中学校における授業実践の発表がなされ、中でもこの研究大会では珍しい硬筆学習についての実践発表があった。

金沢市立泉野小学校で教鞭を執っておられる佃さえ子先生の「生活に生きる書写の授業をめざして」－4年「招待状を書こう」(硬筆)の学習を通して一と題する発表では、今となっては書道塾には殆ど通っていない生徒に招待状を書かせることを通しての硬筆指導の実践報告であった。具体的教材としては家族への秋に開催する運動会の招待状作成であり、4年生の書写の教科書教材である文字の配列(横書き)の学習と絡めたものであった。

招待状を書くにあたっては、文字が伝える印象の違いや伝えたい内容によって書き方が違うことに気づかせる趣旨の下、子どもたちは家族に運動会において頑張る気持ちや練習を一所懸命にやってきたことを伝えるべく、よく考えて真剣に書き上げたということであった。また、その中で、事前に学習した横書きの文字の行の整え方(漢字と仮名の大きさを含む)を踏まえて作成していくというものであったが、下線に揃えて書く子よりも中心を揃えて書く子のほうが多かったそうである(縦に書く時も中心線に揃えるためではないか)。さらに自己批評や相互批評を取り入れ、書いた文字を見つめ、課題を見つけて自らその課題を解決するための見通しが持てるよう指導されているとのことであったが、自分の書いた文字を批評する力をも育てていくことは非常に重要なことであると改めて感じた。

国語の教材とも絡めた佃先生の指導は言語活動の工夫がなされており、子どもたちにとっても「自分の心を伝える招待状」を作成する貴重な体験となったに違いない。質疑応答の場面では、文字の中心を行の中心線に合わせたほうが書きやすく読みやすくもなり、また、鉛筆の持ち方や紙の置き方の指導の重要性などを説かれる意見もあり、とても有意義な実践報告を聴かせていただいた。

第16回石川県書写書道教育研究大会に参加して ～未来につながる一步～

金沢市立中村町小学校 角 重人

本研究大会に参加することになったきっかけは、子どもたちの変容でした。

私は筆を持つことが好きで、書写の授業も嫌いではありません。しかし、授業ではいつも個別に対応しきれず、時間差の多い、動きの多い、不満の残る授業をしていました。ところが、本校に転任されてきた先生から、書写バッグ、準備や片付けの仕方、指導で大切なポイントなどを教えていただく度に、書写の授業が変わり、子どもたちの目が生き生きと輝き出したのです。「書写の授業も奥が深い、もっと書写のことを知りたい、もっとたくさん先生が知るべき」こんな思いから、大会へ参加させていただくことになったのです。

大会では、漢字作品の創作から T シャツづくり、運動会の招待状づくりなどの実践が紹介されました。「こんな授業なら子どもたちも書写が好きになるだろう、力をつけていけるだろう」と感じました。少ない時数の中で、いかに系統立てて心に響く活動を取り入れるか、発達段階にも応じた、とても工夫された実践でした。

デジタルコンテンツの発表では、アナログの極みとも言うべき書写書道の世界に新たな風を吹き込んでいるように感じました。以下に、私が感じたコンテンツの魅力を三点にしぼって記します。

一つは、“授業改善をめざした優しい魅力”です。本校の現実として、一人の先生によって書写の授業が1年でガラッと変わるくらい実際はしっかり指導されていません。作品を何とか仕上げればそれで良いという先生や子どもはたくさんいます（私を含めて）。このコンテンツは、そんな先生の助けとなるよう、＝子どもたちの力となるよう、現場の必要感や声を十分に反映させて作られた優しさが根底にあると感じました。

もう一つは、“本質を再認識させる魅力”です。作成者サイドでは、書写書道に詳しい方々と情報系に詳しい方々が協働し、字の見せ方や指導のポイントをそれぞれの視点で何度も練り上げる必要があります。モノを創る際には何度も通る壁。その苦労のたびに本質についての話し合いが生まれるでしょう。また、使い手側は、今までほとんど見なかった指導書の文言が、一つひとつの題材の画面に出てくるため、指導のポイントを再認識させられるでしょう。

最後に、“人をつなげる媒体としての魅力”です。私も含め、書写書道に多少の興味はあってもまだまだ敷居が高いと感じている人は多いでしょう。しかし、このコンテンツによって、前述した作成者側の人の広がりや深まりは期待できるでしょうし、使い手側も「興味を持った」「もっとこうあったらいいな」などの反応が出るのが予想されます。（私自身、完璧でないコンテンツのビデオ画像が、逆に書き手が見える親近感として感じます。）この反応をきっかけに、多くの人をつなげていけたらと感じます。

人が人を教え、文字を伝えてきた文化を次世代に残すためには、このコンテンツが大きな役割を担っていくと感じました。ただし、やはり伝えるのは人です。私も、このコンテンツを“きっかけ”に、熱き想いをもち、多くの人をつなげる一役を担えたら、未来につながる一步にかかわることができたら、と思うようになりました。

どうぞ、よろしく願いいたします。

連 盟 の あ ゆ み

連 盟 役 員 一 覧

連 盟 規 約

石川県書写書道教育連盟のあゆみ

1987. 1. 23 有志が集い県下に校種一貫した書写書道教育研究組織設立に向けて懇談する会を発足させ
(昭和62年) る。(1988. 2. 26迄に9回の会合を開く)

1988. 4. 22 石川県書写書道教育懇談会と改称し第1回の会合を持つ [金沢大学教育学部書道演習室]
(昭和63年) (1995. 10. 5迄に48回開催する。)

1989. 8. 29 **石川県書写書道教育連盟設立総会** [ホテル六華苑]
(平成元年) (平成2年度に第1回石川県書写書道教育研究大会開催することを決定)

平成元年度 石川県書写書道教育連盟役員 (敬称略)

名誉顧問 金子曾政<元金沢大学学長>
顧問 南 和男<石川県教育長>
相談役 北西正二 坂口 敏 田島庄吉 久田久信 氷田茂良 横西 清

会長 藤 則雄<金沢大学教育学部長>
副会長 [石川県教育委員会学校指導課長] 三宅正敏
[金沢市小学校教育研究会書写部長] 河本隆成<金沢市立馬場小教頭>
[金沢市中学校教育研究会習字部長] 大野重幸<金沢市立金石中校長>
[石川県高等学校教育研究会書道部会長] 佐藤政俊<金沢女子高校長>
[石川書写の会会長] 山田泰正<鹿島町立越路小校長>
[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者] 法水光雄<金沢大学助教授>

理事長 [金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者] 兼 任
副理事長 : 幼・保部: 嘉門久直<森本幼稚園長>
: 小学校部: 森川登夫<津幡町立中条小校長> 谷村修次<小松市立蓮代寺小校長>
: 中学校部: 松寺淳照<金沢市立森本中教頭>
: 高校部: 中山武久<津幡高校教諭>

監事 吉田一郎<小松市立向本折小校長>
木本峰生<七尾市教育委員会学校教育課長>

理事 : 県教委学校指導課:
[小学校・中学校(国語科書写)担当指導主事] 永井志津子
[高等学校(芸術科書道)担当指導主事] 高沢幹夫

*金沢地区

: 幼・保部: 青山洋子<みどり・かわい幼稚園副園長>
: 小学校部: 林 道子<南小立野小教諭> 中川晃成<館野小教諭>
: 中学校部: 干場和子<野田中教諭> 古本佳世<野田中教諭>
: 高校部: 林 昭悦<金沢女子高教諭> 石浦義彦<金沢泉丘高教諭>
: 障害児学校部: 南 進 <県立養護学校教頭>

*加賀地区

: 小学校部: 穴田孝子<三谷小校長> 川筋登史己<向本折小教頭> 市村良二<木場小教諭>

- : 中学校部: 阿戸壯一郎<丸ノ内中教頭>
- : 高校部: 東野洋子<小松市立女子高教諭>北室正枝<金沢西高講師>
- : 障害児学校部: 川上千鶴子<小松養護学校高等部主事>

*能登地区

- : 小学校部: 西野和代<天神山小学校長>福田教導<金ヶ崎小学校教頭>
- : 高校部: 蛸喜代子<飯田高校教諭> 大場豊治<七尾高校教諭>

事務局

- : 事務局長: 永江芳教<金沢商高教諭>
- : 副事務局長: 久田英夫<金沢中央高校教諭> 中川晃成<館野小教諭>
- : 庶務部: 部長・中田稚子<森本中教諭> 副部長・宮嶋雅美<明和養護学校教諭>
- : 会計部: 部長・佃さえ子<千代野小教諭> 副部長・八田和幸<鳴和中教諭>
- : 研究部: 部長・金田京子<宇ノ気小教諭> 副部長・嵐 雪絵<金大付属中講師>
- : 会報部: 部長・板橋法子<河南小教諭> 副部長・西尾恵美子<中島小教諭>大坂育代<湯野小教諭>
- : 研修部: 部長・八田和幸<鳴和中教諭> 副部長・北村千恵<山中小教諭>
- : 調査部: 部長・大浦 努<大浦小教諭> 副部長・宮崎聡美<松波小教諭>西川真理<野々市小教諭>

11.15 第4回全国大学書写書道教育学会・平成元年度全国大学書道学会
～17・平成元年度日本教育大学協会全国書道教育部門会《後援》

12. 1 第1回理事会 [金沢商業高等学校]

12.10 『石川県書写書道教育』(創刊号) 発行

1990. 5.18 第2回理事会 [金沢商業高等学校]

(平成 2年)10. 1 『石川県書写書道教育』(第2号) 発行

11.19 第1回石川県書写書道教育研究大会

[金沢市立南小立野小学校・金沢市立野田中学校・石川県立金沢泉丘高等学校]

第3回理事会

1991. 2.23 第4回理事会

(平成 3年) 3. 1 『石川県書写書道教育』(第3号) 発行

6. 4 第5回理事会 [金沢商業高等学校]

10.30 『石川県書写書道教育』(第4号) 発行

11.18 第2回石川県書写書道教育研究大会

[野々市町文化会館・野々市町立野々市小学校・石川県立養護学校]

第6回理事会

1992. 3.26 第7回理事会 [金沢ガーデンホテル]

(平成 4年) 3.30 『石川県書写書道教育』(第5号) 発行

5.28 第8回理事会 [金沢中央高等学校]

10.20 『石川県書写書道教育』(第6号) 発行

11.18 第3回石川県書写書道教育研究大会 [金沢市立鳴和中学校]

第9回理事会

1993. 3. 30 『石川県書写書道教育』(第7号) 発行
(平成5年) 6. 4 第10回理事会 [金沢中央高等学校]

11.11 第4回石川県書写書道教育研究大会

[石川県立金沢商業高等学校・金沢市立富樫小学校・石川県立金沢泉丘高等学校]
第11回理事会

1994. 3. 31 『石川県書写書道教育』(第8号) 発行
(平成6年) 6. 4 第12回理事会 [金沢中央高等学校]
第4回石川県書写書道教育研究大会第1回実行委員会

10.19 第5回石川県書写書道教育研究大会[小松市立女子高等学校・小松市立安宅小学校]
第13回理事会

12. 1 『石川県書写書道教育』(第9号) 発行
1995. 3. 30 『石川県書写書道教育』(第10号) 発行

(平成7年) 6. 6 第14回理事会 [金沢商業高等学校]
9. 20 『石川県書写書道教育』(第11号) 発行

10.20 第6回石川県書写書道教育研究大会[鹿島町立越路小学校・ラビア鹿島]
第15回理事会

1996. 3. 『石川県書写書道教育』(第12号) 発行
(平成8年) 4. 25 第16回理事会 [金沢商業高等学校]
6. 6 第17回理事会 [金沢商業高等学校]
10. 『石川県書写書道教育』(第13号) 発行

11.21 第7回石川県書写書道教育研究大会[金沢市立弥生小学校・石川県立金沢中央高等学校]
第18回理事会

1997. 3. 『石川県書写書道教育』(第14号) 発行
(平成9年) 6. 25 第19回理事会 [六華苑]
10. 『石川県書写書道教育』(第15号) 発行

11.21 第8回石川県書写書道教育研究大会[加賀市立南郷小学校・加賀市文化会館]
第20回理事会

1998. 3. 『石川県書写書道教育』(第16号) 発行
(平成10年) 7. 18 第21回理事会 [六華苑]
10. 『石川県書写書道教育』(第17号) 発行

11. 2 第9回石川県書写書道教育研究大会[内灘町立大根布小学校・内灘文化会館]
第22回理事会

1999. 3. 『石川県書写書道教育』(第18号) 発行
(平成11年) 6. 16 第23回理事会 [六華苑]
9. 『石川県書写書道教育』(第19号) 発行

10.19 第10回石川県書写書道教育研究大会[七尾市立天神山小学校・七尾サンライフプラザ]
第24回理事会

2000. 3. 『石川県書写書道教育』(第20号) 発行
(平成12年) 6. 9 第25回理事会 [六華苑]
10. 『石川県書写書道教育』(第21号) 発行

12.7 第11回石川県書写書道教育研究大会[金沢勤労者プラザ]
第26回理事会

2001. 3. 『石川県書写書道教育』(第22号) 発行
(平成13年) 6. 9 第27回理事会 [六華苑]
10. 『石川県書写書道教育』(第23号) 発行

12.6 第12回石川県書写書道教育研究大会[根上町総合文化会館]
第28回理事会

2002. 3. 『石川県書写書道教育』(第24号) 発行
(平成14年) 8. 8 第29回理事会 [六華苑]
10. 23 『石川県書写書道教育』(第25号) 発行

12.5 第13回石川県書写書道教育研究大会[野々市町文化会館・菅原小学校]
第30回理事会 [野々市町フォルテ]

2003. 8. 27 第31回理事会 [六華苑]
(平成15年) **12.4 第14回石川県書写書道教育研究大会[金沢市西町教育研修館(金沢大学サテライトプラザ)]**
第32回理事会 [金沢大学サテライトプラザ]

2004. 8. 10 第33回理事会 [六華苑]
(平成16年) 12. 『石川県書写書道教育』(第26号) 発行

12.10 第15回石川県書写書道教育研究大会[松任市市民交流センター・蕪城小学校]
第34回理事会 [松任市市民交流センター]

2005. 10. 3 第35回理事会 [六華苑]
(平成17年) 12. 2 県大会準備会

12.9 第16回石川県書写書道教育研究大会[金沢市教育プラザ富樫]
第36回理事会 [金沢市教育プラザ富樫]

石川県書写書道教育研究大会のあゆみ

～基礎基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育～

回	開催日	公開授業	記念講演	
			講師	演題
1	1990.11.19	金沢市立南小立野小学校2年 金沢市立野田中学校1年 石川県立金沢泉丘高等学校1年	久米 公先生 (文部省視学官・ 千葉大学教授)	「新学習指導要領のめざす書写書道の学習指導」
2	1991.11.18	野々市町立野々市小学校1年・6年 石川県立養護学校 (学校公開・クラブ活動等)	續木湖山先生 (帝京大学教授)	「児童生徒の心を引きつける具体的な指導方法」
3	1992.11.18	金沢市立鳴和中学校1年	久米 公先生 (千葉大学教授)	「学習指導の最適化のために」
4	1993.11.11	金沢市立富樫小学校3年 石川県立金沢商業高等学校1年 石川県立金沢泉丘高等学校1年	田中東竹先生 (実践女子大学教授)	「江戸時代の書教育—川柳に見る手習い—」
5	1994.10.19	小松市立安宅小学校6年 小松市立女子高等学校1年	柳下昭夫先生 (東京家政大学講師・ 前教育課程審議会委員)	「文字感覚を養い自ら学ぶ意欲 を高める書写書道教育のあり方」
6	1995.10.20	鹿島町立越路小学校5年 ・研究発表(養護学校)	浦野俊則先生 (二松学舎大学教授)	「漢字は生きている」
7	1996.11.21	金沢市立弥生小学校4年 石川県立中央高等学校2年次 ・研究発表(中学校)	平形精一先生 (静岡大学教授)	「意欲を高めるための書写書道教育」
8	1997.11.21	加賀市立南郷小学校4年 ・研究発表(中学校・高等学校)	宮澤正明先生 (山梨大学助教授)	「実験を通して考える書写・書道」 —「手本が無くてかける」をめざして—

9	1998.11.2	内灘町立大根布小学校3年 ・研究発表(中学校・大学)	平形精一先生 (静岡大学教授)	「これからの書写・書道教育の方向と課題」
10	1999.10.19	七尾市立天神山小学校5年 ・公開学習(幼稚園) ・研究協議	久米 公先生 (大東文化大学教授)	「書写・書道教育における今日的課題」
11	2000.12.7	【金沢勤労者プラザ】 ・パネルディスカッション ・研究発表		
12	2001.12.7	【根上町総合文化会館】 ・研究協議	町川 哲先生 (香川県土庄小学校教諭)	「書写指導における具体的実践にむけて」 ～香川県の実践をもとに～
13	2002.12.5	野々市町立菅原小学校6年 ・研究協議		
14	2003.12.4	【金沢市西町研修館】 (金沢大学サテライトプラザ) ・研究協議		
15	2004.12.10	【松任市民交流センター】 松任市立蕨城小学校 3年・6年 ・研究協議		
16	2005.12.9	【金沢市教育プラザ富樫】 ・研究協議		

平成17年度 石川県書写書道教育連盟役員 (敬称略)

(平成18年1月現在)

顧問 山岸 勇<石川県教育委員会教育長>

相談役 坂口 敏 久田久信 氷田茂良 法水光雄 押木秀樹

参与 吉田一郎 森川登夫 木本峰生 谷村修次 南 進 河本隆成
福田教導 永井志津子 中山武久 林道子

会長 藤 則雄<金沢大学名誉教授・元金沢大学教育学部長>

副会長

[石川県教育委員会学校指導課長]	浅田秀雄
[石川県私立幼稚園協会理事長]	源 通<妙源寺幼稚園園長>
[金沢市小学校教育研究会(書写代表)]	長井珠子<金沢市立浅野町小学校教頭>
[金沢市中学校教育研究会書写部長]	吉崎利成<金沢市立芝原中学校校長>
[石川県高等学校教育研究会書道部会長]	鈴木庸雄<県立金沢錦丘高等学校校長>
[石川県特殊教育諸学校校長会代表]	山崎保弘<県立盲学校校長>
[石川書写の会会長]	町出憲子<金沢市立大浦小学校校長>
[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者]	折川 司<金沢大学講師>

理事長 石浦義彦<県立金沢泉丘高校教諭>

副理事長

: 小学校部: 大浦 努<金沢市立森本小学校教諭>
: 高校部: 林 昭悦<県立金沢中央高等学校教諭>
: 盲・ろう・養護学校部: 尾小山輝子<県立盲学校教頭> [県特殊教育諸学校
教頭会代表]

監事 永江芳教<松任高校教諭> 帽子山瑞枝<和倉小学校教頭>

理事

*石川県教育委員会

[小学校・中学校(国語科書写)担当指導主事]	中西外美<県教育センター指導主事>
[高等学校(芸術科書道)担当指導主事]	江尻祐子<県学校指導課指導主事>

* 金沢地区

- : 幼・保部： 青山洋子<みどり・かわい幼稚園副園長>
- : 小学校部： 石野昌子<長坂台小学校教諭> 中川晃成<中村町小学校教諭>
- : 中学校部： 福島絹子<大徳中学校教諭> 古本佳世<城南中学校教諭>
- : 高校部： 永江芳教<松任高校教諭>

* 加賀地区

- : 中学校部： 小座間美智子<山中中学校教諭>

* 能登地区

- : 小学校部： 帽子山瑞枝<和倉小学校教頭> 奥原せい子<櫛比小学校教頭>
- : 中学校部： 山田寿一 <中能登地方教育事務所長>
- : 高校部： 齋喜代子<県立飯田高校教諭>
- : 盲・ろう・養護学校部： 清水徳典<七尾養護学校教諭>

事務局

- : 事務局長： ・ 中川晃成<中村町小学校教諭>
- : 副事務局長： ・ 岩田稚子<鳴和中学校教諭>

: 庶務部

- 部長・田中学<金沢伏見高校教諭> 副部長・堀順一郎<菅原小学校教諭>
- ・ 西脇良樹<越路小学校教諭> ・ 山田千恵<片山津小学校教諭>

: 会計部：

- 部長・西尾恵美子<串小学校教諭> 副部長・山口雅美<安原小学校教諭>
- 部員・山沢聡美<御幸中学校教諭>

: 研究調査部：

- 部長・八田和幸<高岡中学校教諭> 副部長・水上真由美<金沢商業高校教諭>
- 部員・柿木千鶴<諸江町小学校教諭> ・ 坂井雪絵<志雄小学校教諭>
- ・ 木之下知子<材木町小学校教諭> ・ 倉下真澄<金沢大学付属中学校講師>
- ・ 間野清美<旭丘小学校教諭> ・ 沢村麻由美<串小学校講師>

: 会報部：

- 部長・新谷幸一<小立野小学校教諭> ・ 副部長・北野京子<諸江町小学校教諭>
- 部員・佃さえ子<泉野小学校教諭> ・ 寺井純子<町野小学校教諭>
- ・ 岸瑞代<大聖寺高校講師> ・ 中辻育代<能美小学校教諭>
- ・ 吉田美晴<中央小学校芳齋分校教諭> ・ 水谷清美<千坂小学校教諭>

石川県書写書道教育連盟規約

- 第1条（名称） 本会は、石川県書写書道教育連盟と称する。
- 第2条（本部・事務局）本会の本部を金沢大学教育学部内におき、事務局を事務局長の在勤校におく。
- 第3条（目的） 本会は、授業研究を中心として、県内の幼稚園（保育園・保育所）・小学校・中学校・高等学校・大学（短期大学・専門学校）・障害児学校等の一貫した書写書道教育と書道文化の更なる充実発展に努めるとともに、会員相互の親睦を図ることを目的とする。
- 第4条（事業） 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
（1）研究会の開催
（2）会報の発行
（3）関連する学会・研究会・内外諸機関との連絡と協力
（4）講演会・講習会の開催
（5）調査研究
（6）その他必要な事業
- 第5条（組織） 本会は、県内の幼稚園（保育園・保育所）・小学校・中学校・高等学校・大学（短期大学・専門学校）・障害児学校の教員及び本会の目的に賛同するものをもって組織する。
- 第6条（役員） 本会に、下記の役員をおく。
会長 1名 副会長 若干名 理事長 1名
副理事長 若干名 監事 若干名 理事 若干名
事務局長 1名 副事務局長 若干名
（1）事務局には、次の六部をを設け、各部とも、部長1名、副部長1名、部員若干名をおくものとする。
・庶務部 ・会計部 ・研究部 ・会報部 ・研修部 ・調査部
（2）本会に、名誉顧問・顧問・相談役・参与を推薦することができる。
（3）役員を選出と任期は、下記のように定める。
（Ⅰ）役員は理事会において選出する。
（Ⅱ）役員の任期は一年とする。ただし、再任は妨げない。
- 第7条（理事会） 本会の理事会は、本会の運営及び事業に関する重要事項を審議決定する。
（Ⅰ）理事会は必要に応じて、会長が召集する。
（Ⅱ）理事会は、第6条における、会長・副会長・理事長・副理事長・監事・理事・事務局長・副事務局長・事務局各部長によって構成する。
- 第8条（会計） 本会の経費は、会費及びその他の収入をもってこれにあてる。
- 第9条（会計年度） 本会の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- 第10条（監査） 本会の会計は、監事によって監査を受ける。

〔附則〕

- 第11条 規約の改訂は、理事会の議決を経なければならない。

平成 元年 8月 29日 制定
平成 2年 5月 18日 一部改定

中国品=古硯・印材・筆・墨・硯・紙
国内品=画仙紙・色紙・各種書道額縁

書道用品専門店

文房四宝 **文真堂**

金沢市尾張町2丁目11の28 TEL 264-1836

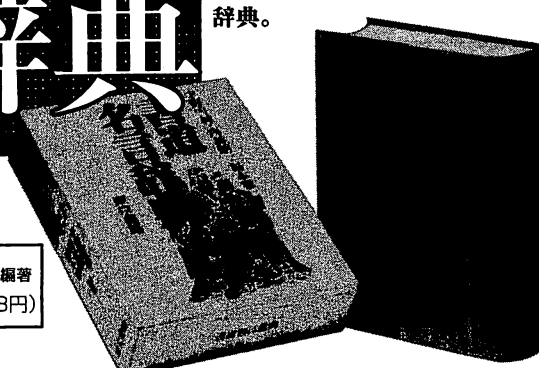
東京書籍

北陸支社:〒920-0918 金沢市尾山町1-8 朝日生命金沢ビル
TEL.076-222-7581 FAX.076-232-2719
ホームページ… <http://www.tokyo-shoseki.co.jp>
東書Eネット… <http://ten.tokyo-shoseki.co.jp>

書道 名言辞典

書・篆刻・文房に関して、中国・日本の書論・随筆・詩などから名言・名句を集め、やさしく解釈・解説した読む辞典。学書・指導・鑑賞の指針となる初めての書の名言辞典。

宇野雪村・西林昭一・福本雅一 編著
A5判/788頁/定価7952円(本体7573円)



技術と伝統・額縁と共に半世紀



株式会社

大 一

本社 〒729-3497 広島県甲奴郡上下町字上下1513-1
TEL (0847) 62-3517 FAX (0847) 62-4528
東京営業所 〒181-0013 東京都三鷹市下連雀1-16-5
TEL (0822) 42-3085 FAX (0822) 42-3251
福山営業所 〒721-0907 広島県福山市春日町6-14-24
TEL (084) 941-8161 FAX (084) 941-8048
額縁・衝立・屏風・掛軸 製造販売

墨 練習用から作品用まで

墨液

(練習用)
墨液
濃墨液



玄宗

(作品用)

普通
中濃
濃墨
超濃



墨運堂 〒630-8357 奈良市杉ヶ町39-1
(0742) 26-5611

創業百年、絶え間ない研究の精華を放つ

油煙磨墨液 純松煙磨墨液

天衣無縫

松潤

書芸吳竹



紫紺系黒
純黒
青系黒
濃墨

作品用書道液



株式会社 呉竹

Kuretake

〒630-8670 奈良市南京崎町7-576
TEL.0742.50.2060 FAX.0742.50.2070

伝統的工芸品指定 熊野筆
高級書道用筆墨硯

(株) 久保田徳

筆匠 竹嶋

☎ 731-4215

本店 広島県熊野町 ☎(082)854-0009 番的
東京 東京都台東区台東3-42-4
書道殿堂東京久保田号ビル



伝統的工芸品 熊野筆製造
併設全日本書作家練成道場

熊野筆センター
株式会社



本社 〒730-0051 広島市中区大手町1-5-11 TEL082(543)2844
大阪営業所 〒580-0014 松原市岡6丁目5-50 TEL0723(35)0605
東京営業所 〒224-0032 横浜市新築区茅ヶ崎中央31-12-201 TEL045(942)4119
"アンテナショップ"
熊野筆センター広島店
〒730-0013 広島市中区八丁堀5-2-9 TEL082(222)1919

因州産紙 書道用紙 洋紙板紙 包装資材

因州屋 株式会社

〒680-0912 鳥取市商栄町155番地
TEL(0857)24-6611 FAX(0857)27-1811
E-mail insyuys@apionet.or.jp

高級別注額縁 各種特注額 器具製作

高級水型額縁 各種屏風・衝立

株式会社 サン美術工芸

933-0941 本社 富山県高岡市内免4丁目6-33
TEL 0766-21-6112 FAX 0766-25-3851
h~j*:http://www.media-pro.co.jp/~sanbi

Eメール: san@p1.tcnnet.ne.jp

石津表具店

京都市中京区壬生馬場町16-5

TEL 075 (812) 3318

平成18年度 光村図書版教科書完全準拠

●小学校書写 児童用教材

書写の練習 1,2年上下 3～6年刊 各320円(税込)

毛筆書写の練習 3～6年 年刊 各420円(税込)

●小学校書写 指導用資料(学校備品)

毛筆書写指導ビデオ(準拠外)全3巻 各9,975円(税込)

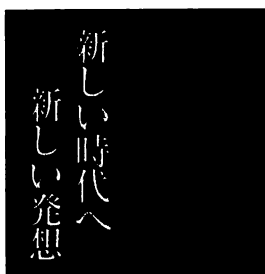
書写掛図(硬筆) 1,2年各1巻 各12,600円(税込)

書写掛図(毛筆) 3～6年各1巻 各16,800円(税込)

●中学校書写 生徒用教材

中学 硬筆練習帳 1年/2,3年全2冊 各350円(税込)

光村教育図書株式会社 〒141-0031 東京都品川区西五反田 2-27-4
TEL.03-3779-0581 FAX.03-3779-0266



企画・印刷・出版の分野から 新しい時代のメッセージ

AO 能登印刷株式会社

本社●〒920-0855石川県金沢市武蔵町7番10号

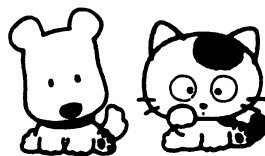
TEL 076-233-2550(代) FAX 076-233-2559

工場●〒924-0013石川県白山市番匠町293番地

TEL 076-274-0084(代) FAX 076-274-0016

グループ会社●株式会社博文堂 シナジー株式会社

学校教材・文具・事務用品



奈良教材文具店

白山市新田町10-3
TEL 076-274-6370
FAX 076-274-6372

文 溪 堂

新 学 社

光 文 書 院

教 育 同 人 社

日 本 標 準



代理店

教材・教具・文具

藤田商店

小松市新鍛冶町13の1
TEL0761-21-3278

筆・墨・紙・硯・額縁・掛軸

文房四宝 絃 貴 堂

〒920-8202 金沢市西都2丁目92

TEL (076) 267 - 2077
FAX (076) 267 - 2078

あすを築く教育のいしずえ



北陸青葉

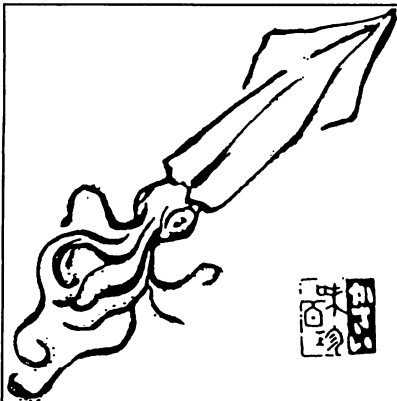
学校教材販売

有限
会社

本田教材社

書道セット
かきかたノート
石川書写の会編
コンクール用紙

金沢市寺町1丁目3-26
☎ (076) 241-1339
FAX (076) 241-7705



味のかさい

本社 / 〒921-8044 金沢市米泉町8丁目8番地
TEL (076) 247-2231
FAX (076) 247-3612
片町店 / 〒920-0981 金沢市片町1丁目7番17号
TEL (076) 262-9333
FAX (076) 262-9333

(株)津田精工

白山市旭丘1-4 TEL 076-276-1311

OA機器・事務器・文具・紙製品

百々商会

〒920-0202 金沢市木越1丁目69番地

TEL・FAX 257-2065

年
松
井
秀
喜

大好評
あなたのお名前
の手本を
サービス

- 名前書きの指導にぴったり
- 長年使えるパウチ加工
- 中央線も入って見やすい

ヤマガミの書道セットには
お手本ねーむがついてくる!

有限会社 **ヤマガミ共育社**
〒921-8001 金沢市高島3-154
TEL. 291-1250 FAX. 292-8008

FOOTBALL & BASKETBALL

Pro shop
N&S KANAZAWA

金沢市久安3-361
TEL / 076-245-5510

HP <http://www.ns-sports.jp/>

日本画・洋画

美術部

掛軸 額装 屏風

襖貼 製作 工事部

岡田錦成堂

安江町13表具屋小路 ☎ 金沢 221-3658

学校教材特約店

島野教材

代表者 島野英伸

〒923-0342 石川県小松市矢田野町イの41
TEL(0761)44-2622 FAX(0761)43-2828

参考書・心理検査・各種教材

株式会社 布村教材社

〒920-0811 金沢市小坂町中35-4
TEL (076)251-1702
FAX (076)251-1701

本・雑誌・文具・CD・楽器

知性と情操をおとどける

うつのみや

柿木島本店/金沢市広坂 1-1-30 電話 076-234-8111



金沢・北安江

TEL 231-6773
FAX 231-6940

学校教材なんでも

書籍・文房具・教材・教具

粟津書店

粟津祐治

〒924-0855 石川県白山市水島町168
TEL 277-0303
FAX 277-2505

㈱ハローバッティングセンター

草野球から児童・中学・高校野球まで野球情報が満載
<http://www.nsknet.or.jp/~hellobc/index.htm>
E-mail:hellobc@nsknet.or.jp

〒920-0016 石川県金沢市踏江町中丁179-3
TEL/076-223-0541 FAX/076-223-0562
営業時間 AM 9:00~PM 11:00

車両販売・三井住友海上火災保険代理店

(有)ケーティーオート

加賀市湖城町2-345
TEL 0761-75-3615
FAX 0761-75-3614

月刊 ASOCCAR 掲載中!!

あしたの教育を拓く

- 暁教育図書のエデュケーション・教材
- 毎日の学習教材「はつらつ」

北陸暁図書販売株式会社

金沢市石引4丁目4-4

☎(076) 232-2425(代)

金沢紙商組合加盟店

取扱品 紙・印刷・事務機器・ハンコ

二木紙店

金沢市金石西3-7-9
TEL 267-0503 FAX 267-5271

書道、水墨画用品の激安専門店！

日本書道販売株式会社

ミドリヤ

画仙紙（紅星牌・福建紙・台湾紙・因州・伊予
半紙・料紙・和紙）

和筆（広島熊野筆）、唐筆（上海工芸）

和墨（呉竹・墨運堂・古梅園・開明）、唐墨

硯（端溪・老坑・歙州・澄泥・細羅紋）

印材（青田・巴林・寿山）、印刀（永字牌等）

色紙、短冊、和紙小物

額（書道額、デッサン額、水墨画用額）

表装、表装用品

★通信販売もしています

本店 石川県能美市五間堂戊46-6

TEL 0120-58-4344 FAX 0120-58-4346

営業時間 10:00~19:00